

The 84th Annual Conference of Japanese Educational Research Association

日本教育学会

第84回大会 プログラム

大会校：上智大学

August 23rd, 25th, 26th



上智大学総合人間科学部教育学科 共催

日本教育学会

第84回大会プログラム

期間：2025年8月23日（土）、25日（月）、26日（火）

会場：上智大学 四谷キャンパス

8月23日（土） オンライン

自由研究発表

ラウンドテーブル

社員総会

24日（日） 移動日

25日（月） ハイフレックス

課題研究Ⅰ

総会

日本教育学会奨励賞授賞式

公開シンポジウム

26日（火） ハイフレックス

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ

若手交流会

日本教育学会第 84 回大会のご案内

日本教育学会第 84 回大会実行委員会

委員長 酒井 朗

平素より本学会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび日本教育学会第 84 回大会は、上智大学四谷キャンパスを会場として、2025 年 8 月 23 日（土）、25 日（月）、26 日（火）の日程で開催いたします。

1 日目（8 月 23 日）はオンラインにて、「自由研究発表」（一般研究発表およびテーマ型研究発表）と「ラウンドテーブル」を実施いたします。2 日目・3 日目（8 月 25 日・26 日）は会場ならびにオンラインとのハイフレックス形式により、「課題研究」「公開シンポジウム」「総会」「奨励賞授賞式」「若手交流会」など、多彩なプログラムを予定しております。

自由研究発表やラウンドテーブルには多数のお申し込みをいただいております。関心の高さがうかがえます。課題研究では、人口減少社会、包括的教育機会の保障、公教育の再考など、現代教育における喫緊の課題を取り上げ、活発な議論が期待されます。また、2 日目午後に開催される公開シンポジウムでは、「学習指導要領改訂と教育学研究」をテーマに、中央教育審議会での検討経緯や教育学的視点からの評価をふまえ、これからの学校教育や教育課程の基準のあり方について、深い議論を行う予定です。

本大会が、教育ならびに教育学の未来をともに考える貴重な機会となるよう、全国の会員の皆さまにご参加いただけますことを、心よりお願い申し上げます。夏の盛りの開催となりますが、会場・オンラインの双方で、皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

大会案内

1. 開催日

2025 年 8 月 23 日（土）オンライン開催

8 月 25 日（月）ハイフレックス開催（対面会場：上智大学）

8 月 26 日（火）ハイフレックス開催（対面会場：上智大学）

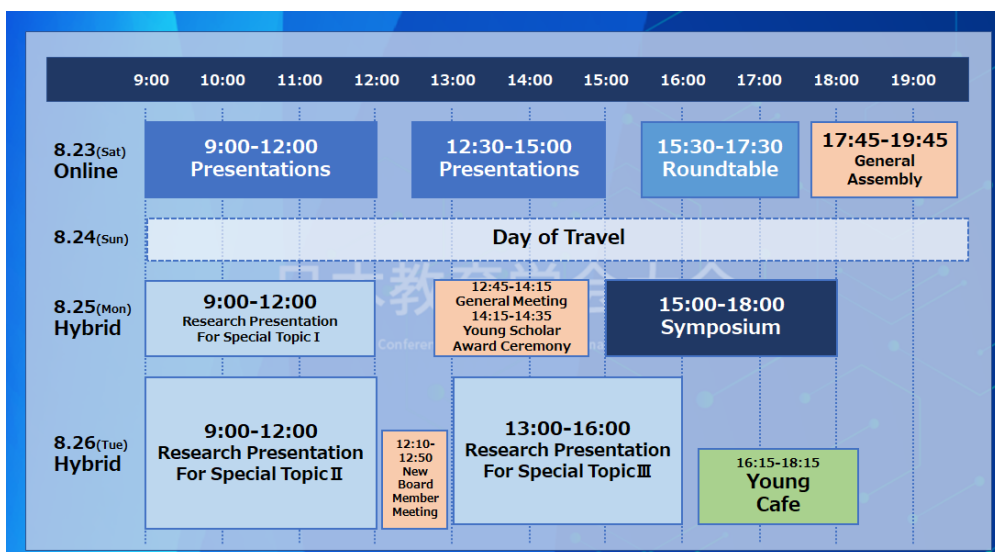
2. 開催方法

対面とオンラインによるハイフレックス方式

＜対面会場＞ 上智大学 四谷キャンパス 6 号館

＜オンライン会場＞ 各分会のオンライン参加情報は大会参加申込者に 8 月 21 日（木）にご案内します。

3. 日程



大会案内

4. 実行委員会および連絡先

委員長：酒井朗（上智大学）

副委員長：上野正道（上智大学） 杉村美紀（上智大学）

委員：相澤真一（上智大学） 青木由紀子（武蔵野学院大学） 秋元みどり（青山学院大学）

桐田敬介（武蔵野学院大学） 澤田稔（上智大学） 杉村美佳（上智大学短期大学部）

鈴木宏（上智大学） 中野綾香（上智大学） 奈須正裕（上智大学） 野々村淑子（上智大学）

丸山英樹（上智大学）

連絡先：〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学総合人間科学部教育学科内

酒井朗研究室気付 日本教育学会第 84 回大会実行委員会事務局

E-mail : sophia84@jera.jp

目次

大会案内

I インフォメーション

1. 参加方法・参加費等
2. 自由研究発表(一般研究発表およびテーマ型研究発表)
3. ラウンドテーブル
4. 若手交流会
5. 『発表要旨集録』
6. 昼食
7. 懇親会
8. クローク
9. 託児支援
10. Wi-fi の利用
11. 自由研究発表・ラウンドテーブルの関係者の皆様へ
12. 交通アクセス
13. 大会会場一覧

II 大会日程

III プログラム

IV 学会事務局からのお知らせ

I インフォメーション

1. 参加方法・参加費等

大会へは、2025 年 7 月 2 日（水）～8 月 19 日（火）の間に、大会 HP に掲載する「参加申込フォーム」よりご登録いただき、下記の大会参加費をお支払いいただくことでご参加いただけます。参加手続きにつきましては、日本教育学会第 84 回大会 HP の「参加申込」ページ（<https://jera-taikai.jp/jera84/participation/>）をご確認ください。

一般会員：5,000 円

学生会員：2,000 円

臨時一般会員：7,700 円（税込）

臨時学生会員：3,300 円（税込）

※公開シンポジウムのみへの参加は参加費無料

※公開シンポジウムのみへの参加希望者は、2025 年 7 月 2 日（水）以降に専用申込ページより参加登録をしていただきます（大会 HP をご参照ください）。

2. 自由研究発表（一般研究発表およびテーマ型研究発表）

発表時間は、一般研究発表【A】、テーマ型研究発表【B】ともに一件当たり次の通りです。

個人研究発表 発表時間 25 分＋質疑 5 分

共同研究発表 発表時間 50 分＋質疑 10 分

※共同研究であっても口頭発表者が 1 名の場合の発表時間は、個人研究発表と同じです。

※発表の取消が生じた場合でも、発表時刻および発表順は変更しません。

3. ラウンドテーブル

ラウンドテーブルは、会員の創意で自主的に企画される研究交流・意見交換の機会です。

8 月 23 日（土）の 15:30～17:30 に開催します。18 件の企画が予定されています。

4. 若手交流会

8 月 26 日（火）の 16:15～18:15 に対面およびオンライン（Zoom）のハイフレックス形式で開催します。

5. 『発表要旨集録』

『発表要旨集録』の印刷・発行はしませんが、大会参加申込を 8 月 19 日（火）までに完了していただいた方に、オンライン大会会場への参加と『発表要旨集録』閲覧に必要なパスワードを 8 月 21 日（木）以降に送付させていただく予定です。

I インフォメーション

6. 昼食

8月25日(月)および26日(火)とも、大学内の一部食堂は開業しております。詳細はこちらのホームページをご確認ください。

(FIND SOPHIA : <https://findsophia.jp/menu/>)



また、下記の大学周辺の飲食店案内マップも併せてご活用ください。(2025年4月現在)

上智大学周辺 飲食店案内マップ (2025年4月現在)

① コモレ四谷 (飲食店・スーパーなど)

② アトレ四谷 年中無休

ボール(バーカリー・カフェ)(1F)
Tel: 03-5368-8823
7:30-21:00(月-土)
8:00-20:00(日・祝)
スープストックトーキョー (スープ・カレー) (1F)
Tel: 03-5312-9650
7:30-22:00(月-金)
8:00-21:30(土)
8:00-21:30(日・祝)
カンナムキンパ(韓国料理)(1F)
Tel: 03-3350-0922
9:00-21:00(月-金)
9:00-21:00(土)
10:00-20:30(日・祝)
おむすび庵(おむすび・惣菜)(1F)
Tel: 03-3357-0141
7:30-21:00(月-金)
8:00-21:00(土)
8:00-20:00(日・祝)
カフェ アントニオ(イタリアンカフェ)(2F)
Tel: 03-5379-0388
10:00-22:00(月-土)
10:00-21:30(日・祝)
スターバックスコーヒー(カフェ)(1F)
Tel: 03-5368-1751
7:30-22:00(月-土)
7:30-21:00(日・祝)

③ 主婦会館 プラザエフ レストランエフ(2F)
Tel: 03-3265-8115
11:30-14:00(L.O.13:45) 不定休

④ ケンタッキー・フライド・チキン
Tel: 070-3306-1244
10:00-22:00

⑤ マヌエル・カーザ・デ・ファド (ポルトガル料理)
Tel: 050-5593-7675
ランチタイム 11:30-14:30(L.O.)(月-土・祝)
ディナー 18:00-22:00(L.O.)(月-土・祝)

⑥ ホテルニューオータニ レストランが多数あります

⑦ オー・バカナル紀尾井町店(フレンチ・カフェ)
Tel: 03-5276-3422
10:00-23:00(月-土)
10:00-22:00(日・祝)

⑧ サンマルクカフェ四ツ谷駅前店(カフェ)
Tel: 03-5366-9309
7:00-21:30(月-金) 7:00-21:00(土・日)

⑨ ピッツァ サルヴァトーレ・クオモ(イタリアン)
Tel: 03-3355-7765
7:00-9:30(L.O.)・11:30-14:00(L.O.)
・17:00-22:30(L.O.)(月-金)
7:00-9:30(L.O.)・11:00-22:30(L.O.)(土・日・祝)

⑩ とんかつと焼鳥 An 四谷 (和風居酒屋)
Tel: 03-5366-5885
11:30-14:30(L.O.)・17:00-22:00(L.O.)

⑪ たいやき わかば(たいやき)
Tel: 03-3351-4396 ※水・日定休
9:00-17:00

⑫ かつれつ四谷ただ (洋食)
Tel: 03-3357-6004
11:00-15:00・17:00-20:00(月-金)
11:00-15:00(土)

⑬ スターバックスコーヒー四谷キャンパス店
Tel: 03-6380-8246
7:00-20:00(月-金)
8:00-19:00(土・日・祝)

Restaurant Map around Sophia University (As of Apr. 2025)

① COMORE Mall Yotsuya
The mall has some casual restaurants.

② Atre Yotsuya
(A small shopping mall at Yotsuya station.) Open dairy

PAUL (Bakery and café) (1F)
Tel: 03-5368-8823
7:30-21:00(Mon-Sat)
8:00-20:00(Sun, Holi)

Soup Stock Tokyo (Soup and café) (1F)
Tel: 03-5312-9650
7:30-22:00(Mon-Fri)
8:00-21:30(Sat)
8:00-21:00(Sun, Holi)

Kangnam Kimpa (Korean deli) (1F)
Tel: 03-3350-0922
9:00-21:00(Mon-Fri)
9:00-21:00(Sat)
10:00-20:30(Sun, Holi)

OMUSUBIGONBE (Rice balls and deli) (1F)
Tel: 03-3357-0141
7:30-21:00(Mon-Fri)
8:00-21:00(Sat)
8:00-20:00(Sun, Holi)

CAFFÈ ANTONIO (Italian café) (2F)
Tel: 03-5379-0388
10:00-22:00(Mon-Sat)
10:00-21:30(Sun, Holi)

STARBUCKS (Café) (1F)
Tel: 03-5368-1751
7:30-22:00(Mon-Sat)
7:30-21:00(Sun, Holi)

③ Shufu-kaikan Plaza-f Restaurant f (Lunch Buffet) (2F)
Tel: 03-3265-8115
11:30-14:00(L.O.13:45) Closed irregularly

④ KFC (Kentucky Fried Chicken)
Tel: 070-3306-1244
10:00-22:00

⑤ MANUEL Casa de Fado (Portuguese food)
Tel: 050-5593-7675
Lunch Time 11:30-14:30(L.O.)(Mon-Sat, Holi)
Dinner 18:00-22:00(L.O.)(Mon-Sat, Holi)

⑥ The New Otani (Hotel)
The hotel has many restaurants. Please contact each restaurant in a to inquire about vegetarian and hal.

⑦ AUX BACCHANALES (French Brasserie.)
Tel: 03-5276-3422
10:00-23:00(Mon-Sat) 10:00-22:00(Sun, Holi)

⑧ Sanmaruku cafe in front of Yotsuya station (cafe)
Tel: 03-5366-9309
7:00-21:30(Mon-Fri)
7:00-21:00(Sat, Sun)

⑨ PIZZA SALVATORE CUOMO (Italian)
Tel: 03-3355-7765
7:00-9:30(L.O.)・11:30-14:00(L.O.)
・17:00-22:30(L.O.)(Mon-Fri)
7:00-9:30(L.O.)・11:00-22:30(L.O.)(Sat, Sun, Holi)

⑩ Tonkatsu&Yakitori An Yotsuya(Japanese-style Pub)
Tel: 050-5592-5935
11:30-14:30(L.O.) , 17:00-22:00(L.O.)

⑪ Taiyaki Wakaba (Taiyaki, that is, sweets.)
Tel: 03-3351-4396
9:00-17:00 Closed Wed, Sun

⑫ Katsuretsu Yotsuya Takeda (Japanized western restaurant)
Tel: 03-3357-6004
11:00-15:00 17:00-21:00(Mon-Fri)
11:00-15:00(Sat) Closed Sun, Holi

I インフォメーション

7. 懇親会

開催しません。ご自由に情報交換や親睦会を行っていただければと思います。

8. クローク

本大会においては設置いたしません。四ツ谷駅近辺のコインロッカー等をご利用ください。



四ツ谷駅近辺のコインロッカーを検索できるサイトをご利用ください。

<https://cloak.ecbo.io/ja/jpn/city/tokyo/242>

9. 託児支援

大会 2 日目または 3 日目に開催される課題研究、シンポジウム、若手交流会において、司会、登壇者、指定討論者、話題提供者として現地で参加される方につきましては、当該企画に参加するための託児サービス（自宅でヘルパーを依頼する場合も含む。）を利用した際の費用の半額（1 日あたり上限 5,000 円）を、実行委員会でご負担させていただきます。7 月 30 日（水）までに実行委員会にご連絡ください。なお現地では託児場所は用意しておりませんが、授乳等に必要なスペースはご用意いたしますので、受付にてお問い合わせください。

10. Wi-fi の利用

上智大学構内では、eduroam JP をご利用できます。ご自身の所属機関の eduroam アカウントで Wi-Fi 接続できますので、事前にユーザ名やパスワードをご確認の上、お越しください。eduroam の利用アカウントをお持ちでない方は、大会期間中、会場の 6 号館内で利用できる Wi-Fi 環境のゲストアカウントを発行し、受付でお渡しいたします。

eduroam もゲスト用学内 Wi-Fi も、接続状況・通信状況が安定しない場合があります。ゲスト用学内 Wi-Fi は同時接続数の制限がかかる予定です。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

11. 自由研究発表・ラウンドテーブルの関係者の皆様へ

完全オンラインでの開催となります。8 月 19 日（火）までの大会参加申込後、8 月 21 日（木）にオンライン参加のための情報をご案内させていただきます。各部会の開始時刻 20 分前にオンライン部会にお入り下さい。

I インフォメーション

12. 交通アクセス



JR 中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線 / 四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩 3 分

13. 大会会場一覧

8 月 25 日 (月) と 8 月 26 日 (火) に実施されるすべてのプログラム (大会受付・課題研究・シンポジウム・若手交流会・総会ほか) は上智大学の 6 号館で開催します。

6号館

〈1階〉



〈2階〉



I インフォメーション

8月23日(土)	9:00-12:00 自由研究発表	オンラインのみ	
	12:30-15:00 自由研究発表		
	15:30-17:30 ラウンドテーブル		
	17:45-19:45 社員総会(理事会)		
8月25日(月)	8:30- 受付	【6-101】	大会実行委員会控室 【6-203】 書籍販売コーナー 【6-204】 会員控室 【6-205】
	9:00-12:00 課題研究Ⅰ	【6-101】	
	12:45-14:15 総会	【6-101】	
	14:15-14:35 日本教育学会奨励賞 授賞式	【6-101】	
	15:00-18:00 シンポジウム	【6-101】	
8月26日(火)	8:30- 受付	【6-101】	
	9:00-12:00 課題研究Ⅱ	【6-101】	
	12:10-12:50 新理事会	【6-201】	
	13:00-16:00 課題研究Ⅲ	【6-101】	
	16:15-18:15 若手交流会	【6-201】	

II 大会日程

II 大会日程

8月23日（土）

自由研究発表 9：00～12：00（部会により、終了時刻が早まります）

	テーマ	掲載頁
A-1	教育理論・思想・哲学	16
A-2-1	教育史①	17
A-3	学校制度・経営	18
A-4	教育行財政・教育法	19
A-5-1	比較・国際教育①	20
A-6-1	教育方法・教育課程①	21
A-8-1	教科教育①	22
A-11	幼児教育・保育	23
A-13	高等教育・中等後教育	24
A-14-1	教師教育①	25
A-18-1	特別支援教育・特別ニーズ教育①	26
B-1	市民性教育の課題	27
B-2-1	学校のリアリティと教育改革の課題①	28
B-3	ジェンダーと教育	29
B-4	教員政策	30
B-6-1	教育学の問い直し①	31
B-7-1	子ども問題と教育・福祉①	32

自由研究発表 12：30～15：00（部会により、終了時刻が早まります）

	テーマ	掲載頁
A-2-2	教育史②	33
A-5-2	比較・国際教育②	34
A-6-2	教育方法・教育課程②	35
A-6-3	教育方法・教育課程③	36
A-8-2	教科教育②	37
A-9	発達と教育	38
A-14-2	教師教育②	39
A-15	社会教育・生涯学習	40
A-17	カウンセリング・教育相談	41
A-18-2	特別支援教育・特別ニーズ教育②	42

II 大会日程

B-2-2	学校のリアリティと教育改革の課題②	43
B-6-2	教育学の問い直し②	44
B-7-2	子ども問題と教育・福祉②	45
B-9	Educational Issues from Global Perspectives	46
B-10	高校探究学習の構造と実践	47
B-11	日本の学校教育における音楽の存在理由	48
B-12	地域コミュニティと教育	49

ラウンドテーブル 15:30～17:30

	テーマ	掲載頁
1	戦後の「地方カリキュラム」と「地方学力テスト」の研究 —全国調査による資料の収集・整理・検討から—	50
2	教育学の研究・教育における倫理的問題を考える	51
3	篠原助市は「国家」をどう語ったか —新カント派哲学と教育学との交錯—	52
4	チェンジラボラトリー —文化・歴史的活動理論にもとづく教育研究の新しい方法—	53
5	これからの授業作りに向けた実践の記述と分析 —「初志の会」の実践とエスノメソドロジー・会話分析の対話から—	54
6	アメリカにおける公教育と教職の再検討 —政治的分断のなかで問われる応答性—	55
7	「つくる」という営みに見いだす保育の可能性 —お茶の水女子大学附属幼稚園での実践を手がかりにして—	56
8	想像力をときはなつ —社会を変えるアート/教育はいかにして可能になるのか—	57
9	学校改革・学校改善を追求する授業研究の論点 —二つのアプローチを対比して—	58
10	高校教育機会の現状と未来を考える	59
11	移民生徒の公教育への包摂 —国際比較から考える教育機会と母語・母文化の保障—	60
12	日本の学校・家庭・社会の貧困化と DEI の遅れ —国際学力調査 PISA と全国学力・学習状況調査のデータサイエンスから—	61
13	教師の専門性と自律性の制度的保障における教員スタンダードの意義と限界 —米国ワシントン州の実践を教科・内容から再検討する—	62
14	教師教育・研修プログラムの開発に関する日蘭共同研究 —オランダ教師教育の現状と課題—	63

II 大会日程

15	探究と乳幼児教育 —園・大学・行政の協働の可能性とその意義—	64
16	イタリアにおけるインクルーシブ教育の魅力と課題 —日米との比較をふまえて—	65
17	教育の制度と身体、あるいは自由について	66
18	ポスト・ソビエト諸国における教育学研究動向 —“Decolonization”と“New Knowledge” という視点からの検討—	67

社員総会（理事会） 17：45～19：45

II 大会日程

8月25日（月）

課題研究Ⅰ 9:00～12:00

テーマ	掲載頁
人口減少社会における地域と学校・大学	69

総会 12:45～14:15

日本教育学会奨励賞授賞式 14:15～14:35

公開シンポジウム 15:00～18:00

テーマ	掲載頁
学習指導要領改訂と教育学研究	71

8月26日（火）

課題研究Ⅱ 9:00～12:00

テーマ	掲載頁
教育における社会正義と公正性 —包括的教育機会の保障を目指して— (Social Justice and Equity in Education: The Path to the Comprehensive Educational Opportunity)	73

新理事会 12:10～12:50

課題研究Ⅲ 13:00～16:00

テーマ	掲載頁
なぜ、日本の公教育は、不自由で非包摂的なのか（その2） —「権利保障」を問う—	74

若手交流会 16:15～18:15

テーマ	掲載頁
教育研究者の多様な仕事と醍醐味	75

プログラム 第一日

8月23日（土）

自由研究発表

ラウンドテーブル

社員総会（理事会）

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【一般 A-1】 教育理論・思想・哲学

司会：尾崎 博美（東洋英和女学院大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：00～9：30 | 境界線を引き直す教師
—M. ブーバー教育的関係論における倫理の実存—
○三木 春紀（慶應義塾大学） |
| 9：30～10：00 | 教育における出会いの様相と変容
—ドゥルーズの情動論を手掛かりにして—
○瑞慶覧 洸太（東京大学大学院） |
| 10：00～10：30 | 「日本人はモンゴリアンではない」という論の再発
—1893 年、サンフランシスコ市に日本人学童隔離
を断念させるまでの在米日本公館の工作—
○岡本 洋之（兵庫大学） |
| 10：30～11：00 | 戦後における務台理作のヒューマニズム論の検討
—三項図式を前提とした教育理念との関連を中心に—
○金井 徹（東北福祉大学） |
| 11：00～11：30 | 学校教育現場における「公正」概念の様相
○秋山 みき（大阪大学大学院） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 9:00～11:30

【一般 A-2-1】教育史①

司会：三時 眞貴子（広島大学）

9：00～9：30

戦間期イギリスの学友会雑誌にみる成人学生の文芸・表現活動—シティ・リテラリー・インスティテュートの『クレセット』を糸口に—
○関 直規（東洋大学）

9：30～10：00

教員赤化事件（二・四事件）の研究
—教育統制の強化と信濃教育会—
○越川 求

10：00～10：30

師範学校寄宿舎は「師範型」の要因か
—1900年前後の中学校との対比を中心として—
○長谷川 鷹士（上越教育大学）

10：30～11：00

学童集団疎開の引率女教員に関する研究
—女性訓導 A『疎開日記』にみる期待された役割と困難—
○田中 友佳子（芝浦工業大学）

11：00～11：30

討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 9:00~12:00

【一般 A-3】 学校制度・経営

司会：曾余田 浩史（広島大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:00~9:30 | 高野桂一職員会議論の形成過程とその特質
—日本教職員組合教育研究全国集会報告書の分析を通じて—
○鈴木 草宮駒（名古屋大学大学院） |
| 9:30~10:00 | 教育課程特例校制度の意義と課題
○押田 貴久（兵庫教育大学） |
| 10:00~10:30 | アメリカの小学校における教科担任制の実践
—連邦教育省の報告とウィスコンシン州ミルウォーキー市・マ
ディソン市の事例の検討—
○成松 美枝（佐賀大学） |
| 10:30~11:00 | 学校における多職種協働のための意思決定法
○久保田 朋実（東北大学大学院） |
| 11:00~11:30 | —斉休校下で学校は何をどう考えていたのか
—不確実な状況下における学校の意思決定の実態—
○森 俊郎（名古屋大学） |
| 11:30~12:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 9:00～12:00

【一般 A-4】 教育行財政・教育法

司会：青木 栄一（東北大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：00～9：30 | 新潟県秋山郷における「義務教育免除地」の歴史とその意味
―地域の実態分析や他の「義務教育免除地」との対比などを通した検討―
○坂本 紀子（聖徳大学） |
| 9：30～10：00 | 高度経済成長期における産炭地の学級編成をめぐる政治過程
―国会会議録の分析から―
○前田 麦穂（國學院大学） |
| 10：00～10：30 | 令和7年給特法等改正案の決定過程
―立法府の動きを中心に―
○竹内 健太（放送大学大学院） |
| 10：30～11：00 | こども基本法と教育無償化論議(2)
―2024年第214回～2025年第217回：少数与党の国会審議から―
○渡部 昭男（大阪信愛学院大学） |
| 11：00～11：30 | 韓国における高等教育財政の拡充に関する論議
―高等平成教育支援特別会計法に係る国会会議録から―
○多胡 太佑（北海道大学大学院・日本学術振興会） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～11:30

【一般 A-5-1】 比較・国際教育①

司会：高妻 紳二郎（福岡大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：00～10：00 | 英米の学校と大学が実施する教師教育の関係性
—EdD プログラムを中心に—
○富田 福代（名古屋大学）
○今泉 友里（茨城大学） |
| 10：00～10：30 | ドイツの看護介護専門学校における労働教育の内容分析
—X校のカリキュラムを用いて—
○鈴木 由真（関西学院大学） |
| 10：30～11：00 | 1950-60年代イタリアにおける Ada Gobetti の親の役割の改革
—『Il Giornale dei Genitori』（1959-1968）を中心に—
○田中 茉莉子（東京大学大学院） |
| 11：00～11：30 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【一般 A-6-1】 教育方法・教育課程①

司会：田上 哲（九州大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：00～9：30 | 児童詩における意味の生成と体験過程の推進
—Gendlin 哲学の文章表現への応用—
○海老澤 佳輝（日本女子大学附属豊明小学校） |
| 9：30～10：00 | 土田茂範が求めた「ふるさとを守る教育」
—地域で生活する「学力」の形成—
○吉村 敏之（宮城教育大学） |
| 10：00～10：30 | 平和学習「シベリア抑留」における記憶と忘却
—「舞鶴引揚記念館」の取組みから—
○外池 彩萌（筑波大学） |
| 10：30～11：00 | 授業のなかで子どもの経験はどのように現れるか
—小学校社会科の授業実践の分析から—
○鯨井 健斗（東京大学大学院） |
| 11：00～11：30 | 教科授業における子どもの発話生成にみる学習行為としての探究
○藤江 康彦（東京大学大学院） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～11:30

【一般 A-8-1】 教科教育①

司会：清水 美憲（筑波大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：00～9：30 | 実践概念を基盤とする音楽教育の検討
—カイザーとヴァルバウム的主張に着目して—
○小山 英恵（東京学芸大学） |
| 9：30～10：00 | 郷土における社会認識の成立過程にみられる諸概念関連構造
の差異と変容の究明 2
○飯島 敏文（大阪教育大学） |
| 10：00～10：30 | 近代日本における科学者の理科教育への関わり
—理科を形成したのはだれか—
○山中 千尋（名古屋工業大学） |
| 10：30～11：00 | 大正期から昭和初期における石澤吉麿の家事教育論
—科学・文化生活・芸術への移行に着目して—
○清重 めい（東京大学大学院） |
| 11：00～11：30 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 9:00~12:00

【一般 A-11】 幼児教育・保育

司会：浅井 幸子（東京大学）

- 9:00~9:30 日米の保育者養成者はある森の幼稚園の保育をどう捉えたか
—多声的エスノグラフィによる国際比較を通して—
○内田 千春（東洋大学）
肥田 武（一宮研伸大学）
加藤 望（名古屋学芸大学）
ポーター 倫子（北陸学院大学）
中坪 史典（広島大学大学院）
- 9:30~10:00 幼稚園に配属された小学校教諭の心理的変容
○鈴木 光海（東北大学）
- 10:00~10:30 保育者養成研修とジェンダー
—幼児教育におけるアンコンシャスバイアスに関する調査研究より—
○石黒 万里子（東京成徳大学）
小玉 亮子（お茶の水女子大学）
- 10:30~11:00 地域子育て支援拠点論における〈地域〉
—2000年代以降の言説動向—
○吉田 直哉（大阪公立大学）
- 11:00~11:30 「子ども・子育てビジョン」における子育て支援概念
○久保田 健一郎（大阪国際大学短期大学部）
- 11:30~12:00 討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【一般 A-13】 高等教育・中等後教育

司会：日下田 岳史（大正大学）

9：00～9：30 高等教育政策における「公共性」言説の変容

○高木 航平（関東学院大学）

9：30～10：30 分厚い中間層の学生を伸ばす大学教育のあり方とは

—教育方法、社会的インパクトの双方の観点から—

○森 朋子（桐蔭横浜大学）

○河本 達毅（桐蔭横浜大学）

10：30～11：00 会計教育におけるグループ型プロジェクトの実践

—自己効力感と集団的自己効力感—

○滝西 敦子（京都先端科学大学）

11：00～11：30 専門職を志望することはいかに進路選択を規定するのか

—大学受験における選抜の力学に着目して—

○氏次 春菜（名古屋大学大学院）

11：30～12：00 討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 9:00～11:30

【一般 A-14-1】 教師教育①

司会：油布 佐和子（早稲田大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:00～9:30 | セカンドキャリア・ティーチャーと学校現場の相互作用
—現場の声から探る学びのプロセス—
○松尾 啓司（認定 NPO 法人 Teach For Japan）
岩田 康之（東京学芸大学） |
| 9:30～10:00 | 新しい教育活動の導入と働き方改革の両立
—脱進学校化する学校改善の事例分析—
○野村 駿（秋田大学）
菊地原 守（鹿屋体育大学） |
| 10:00～10:30 | 教師の専門能力開発と学校改善における「教師の探究（Teacher Inquiry）」の理論的検討
—ニュージーランドの展開を中心に—
○田邊 匠（大阪大学大学院） |
| 10:30～11:00 | インプロは教職志望学生の即興性への恐れを軽減させるのか？
—小学生対象ワークショップのファシリテーション体験から—
○園部 友里恵（三重大学大学院） |
| 11:00～11:30 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 9:00～11:30

【一般 A-18-1】 特別支援教育・特別ニーズ教育①

司会：高橋 智（東海学院大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:00～9:30 | 公立小学校普通学級に在籍する特別な支援を要する児童の転校について（事例研究）
—「個別の指導計画」を活用した支援体制の維持に関する基礎的検討—
○新井 有紗（文部科学省） |
| 9:30～10:00 | 米国における知的障害者の高等教育に関する歴史的研究
—教育を受ける権利に着目して—
○水野 和代（日本福祉大学） |
| 10:00～10:30 | 特殊教育から特別支援教育への転換期における政策変容
—財政的な困難と地方自治体への委嘱を伴う政策転換言説の強調—
○浜 えりか（名古屋大学大学院） |
| 10:30～11:00 | 高等支援学校と高等学校の連携にみるインクルーシブ教育の実践的展開
—学校間の学びの接続と共生に関するインタビュー調査結果の考察を通して—
○中島 弘和（元国立都城工業高等専門学校） |
| 11:00～11:30 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【テーマ B-1】 市民性教育の課題

司会：平井 悠介（筑波大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：00～9：30 | グローバルな文脈における「芸術的市民性」
ー音楽実践を通じた社会的包摂への教育アプローチー
○原田 亜紀子（東海大学） |
| 9：30～10：30 | 米国の市民性教育における生徒のアウトカム認証政策
の展開と課題
ーカリフォルニア州 Seal of Civic Engagement を中心
にー
○古田 雄一（筑波大学）
○川口 広美（広島大学大学院）
○松原 信喜（広島大学大学院） |
| 10：30～11：00 | スカーズデールオルタナティブスクール卒業生の追跡
調査
ーコールバーグのジャストコミュニティは何をもたらしたの
か？ー
○竹原 幸太（東京都立大学） |
| 11：00～11：30 | 戦後 80 年目における中学生の平和意識と平和教育研究
○村上 登司文（京都教育大学） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【テーマ B-2-1】 学校のリアリティと教育改革の課題①

司会：清田 夏代（実践女子大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：00～10：00 | 多部制定時制高校のキャリア支援
—様々な課題のある生徒の潜在的ニーズに注目して—
○富貴 大介（神奈川県立伊志田高等学校）
○黒田 協子（上智大学大学院） |
| 10：00～10：30 | 通信制大学生の進学動機と学習への適応
—高校時代の登校状況による比較—
○宮崎 朔（中央大学大学院） |
| 10：30～11：30 | 留学生と日本人学生の対話による防災教育の実施
○赤羽 早苗（東京科学大学）
○榎原 実香（東京科学大学） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【テーマ B-3】 ジェンダーと教育

司会：木村 涼子（大阪大学）

土田 陽子（帝塚山学院大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：00～9：30 | 保育者と幼児が相互に構築するジェンダー規範
—多文化保育実践の現場から—
○朴 貴禮（大阪大学） |
| 9：30～10：00 | ジェンダーに関連する大学のキャリア教育のラ
イフコース展望への影響
○九鬼 成美（東京大学大学院） |
| 10：00～11：00 | 教師の育児等経験と教職専門性に関する日韓比較
○大日方 真史（三重大学）
○申 智媛（帝京大学短期大学） |
| 11：00～11：30 | ケアの倫理から見る外国人児童生徒受け入れ政策
—ジョアン・トロントの論考を手がかりに—
○古橋 拓実（千葉大学） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【テーマ B-4】 教員政策

司会：石井 拓児（名古屋大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：00～9：30 | カナダ・オンタリオ州における教員の勤務条件
のあり方に関する一考察
○平田 淳（佐賀大学） |
| 9：30～10：00 | 高校教員の労働時間にみる構造的特徴
—X 県全数データを用いた学校間の要因分析—
○菊池原 守（鹿屋体育大学）
野村 駿（秋田大学） |
| 10：00～10：30 | 教育の基礎的理解に関する科目群の見直し
○大辻 永（東洋大学） |
| 10：30～11：00 | ケア労働化する通信制高校教員
—制度と実態の乖離がもたらすもの—
○土岐 玲奈（星槎大学大学院） |
| 11：00～11：30 | 初任者研修における実態の展開と変容プロセス
—初任者研修経験者の語りから—
○中里 万由（東京学芸大学） |
| 11：30～12：00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～11:30

【テーマ B-6-1】 教育学の問い直し①

司会：倉石 一郎（京都大学）

9：00～9：30

国際関係学と教育学の接点領域の“空白”について

—査読論文の扱いの経緯を踏まえて—

○野島 大輔（立命館大学）

9：30～10：00

ジェフ・ウィッティの Democratic Professionalism の
射程

—教師専門職論を超えて—

○山崎 智子（北海道教育大学）

10：00～10：30

堀尾教育権論の歴史＝構造分析

○宮盛 邦友（学習院大学）

10：30～11：00

戦後日本における「天皇制教育」擁護をめぐる

○齋藤 崇徳（社会構想大学院大学）

11：00～11：30

討論

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 9:00～12:00

【テーマ B-7-1】 子ども問題と教育・福祉①

司会：本山 敬祐（岩手大学）

島田 桂吾（静岡大学）

9：00～9：30 小学校と特別支援学校における合理的配慮の適用に関する考察

—保育の視点を手掛かりとして—

○金 仙玉（富山国際大学）

9：30～10：00 産後ケア事業と自治体施策(4)

—大阪府を事例に—

○渡部（君和田） 容子（京都芸術大学）

10：00～10：30 不登校支援をめぐる教師と保護者の価値観の探索的検討

—Web 調査および雑誌記事の分析から—

○田中 綾子（東京学芸大学大学院）

10：30～11：00 子どもは不登校をどのように経験したのか

—当事者の語りに着目して—

○別府 崇善（東京大学大学院）

11：00～11：30 医療的ケア児支援と音楽教育

○山本 智子（国立音楽大学）

11：30～12：00 討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30~14:00

【一般 A-2-2】 教育史②

司会：山名 淳（東京大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30~13:00 | 19世紀ハーバードにおける修辞学の構造
ーボイルストン教授職に着目した思想史の試みー
○小林 尚矢（東京大学大学院） |
| 13:00~13:30 | ホリス・H・キャズウェルのカリキュラム開発論
ーカリキュラム改造運動との関わりに焦点を当ててー
○斉藤 仁一朗（東海大学） |
| 13:30~14:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30～15:00

【一般 A-5-2】 比較・国際教育②

司会：渋谷 真樹（日本赤十字看護大学）

12:30～13:00 教室環境利用が受験競争から受ける影響:中国の学術論文に対するテキスト分析から

○呉 凡（広島大学）

13:00～13:30 日中におけるコンピテンシーの比較研究

—道徳教育の視点を通して—

○張 夢溪（名古屋大学）

13:30～14:00 東南アジア諸国への日本人家族の教育移住

—移住動機・階層・地域差—

○五十嵐 洋己（千葉大学）

14:00～14:30 60周年を迎えた米国「初等中等教育法（ESEA）」

—連邦政府の学力格差是正策の限界、課題、現政権下の関連動向—

○吉良 直（東洋大学）

14:30～15:00 討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【一般 A-6-2】 教育方法・教育課程②

司会：樋口 直宏（筑波大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30～13:30 | 戦後の学校教育における文集の意義
—東京都杉並区立小・中学校の文集を中心に—
○稲井 達也（大正大学）
○有働 玲子（聖徳大学） |
| 13:30～14:00 | 探究の共同体と教師の位置付け
—P4C と PhiE の比較—
○後藤 美乃理（東京大学） |
| 14:00～14:30 | 教育における視覚の優位性の相対化と聴覚の意義
—アイディの視覚主義論に着目して—
○神林 哲平（立正大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【一般 A-6-3】 教育方法・教育課程③

司会：柴田 好章（名古屋大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30～13:00 | 社会情動的スキルの育成における倫理的価値に関する教育の
必要性
—より包括的な心の教育を目指して—
○山本 夏希（上智大学大学院） |
| 13:00～13:30 | 「実践的探究」を志向する日本の教育研究における近年の展開
○宮島 衣瑛（広島大学大学院）
橋本 拓海（東京大学大学院） |
| 13:30～14:00 | グループ探究で交わされる問いの目的と内容、関係の水準
—社会構成主義的視点から見た向社会性に係る力動的教育活動—
○藤居 真路（広島文化学園大学） |
| 14:00～14:30 | 変革的エージェンシーの形成に向けたチェンジラボラトリーに
関する研究
—小学校教師へのインタビューから見えてきたこと—
○白敷 哲久（昭和女子大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30~15:00

【一般 A-8-2】 教科教育②

司会：藤田 晃之（筑波大学）

- | | |
|-------------|--|
| 12:30~13:00 | 道徳教育における生き方の追求についての検討3
—仏教者の価値との向き合い方を手掛かりに—
○安部 孝（名古屋芸術大学） |
| 13:00~13:30 | 外国語（英語）教育における“談話標識”の取り扱いに関して
○大竹 政美（北海道大学） |
| 13:30~14:00 | 中学校国語科における社会的志向性の形成に関する分析
—説明的文章教材を用いた授業実践データから—
○山田 美都雄（宮城教育大学） |
| 14:00~14:30 | 社会科授業における「特異な才能のある生徒」への教育のあり方
—参与観察とインタビューを通して—
○小貫 篤（埼玉大学） |
| 14:30~15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30~15:00

【一般 A-9】 発達と教育

司会：西岡 加名恵(京都大学)

- 12:30~13:30 非認知能力に関する研究動向の分析
—現代及び戦後の研究を中心に—
○町山 太郎(玉川大学(非))
○廖 穎彤(日本大学大学院)
○塩川 雄満(日本大学大学院)
○北野 秋男(日本大学)
- 13:30~14:00 保育者に求められる社会人基礎教育としての文章表現
—文章作成・表現Ⅰを通して—
○早川 礎子(日本ウエルネススポーツ大学)
- 14:00~14:30 「学力核」という仮説
—全国学力・学習状況調査データを活用した構造方程式モデリング—
○田端 健人(宮城教育大学)
- 14:30~15:00 討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30～15:00

【一般 A-14-2】 教師教育②

司会：浜田 博文（筑波大学）

- | | |
|-------------|--|
| 12:30～13:00 | ドイツにおける教員養成制度の改革動向
—教育実習の位置づけを中心として—
○松田 充（兵庫教育大学） |
| 13:00～13:30 | 教職課程における学びを教師の仕事に生かすことに関する学生の意識
○細川 和仁（秋田大学） |
| 13:30～14:00 | 教育実習生を指導する学校現場の教師教育者の資質能力の育成
—イギリスの大学における教員養成の理念実現への挑戦—
○田中 里佳（三重大学） |
| 14:00～14:30 | リンダ・ダーリング＝ハモンド（Linda Darling-Hammond）の
「学習者中心の学校」モデルの検討
○織田 泰幸（三重大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30~14:30

【一般 A-15】 社会教育・生涯学習

司会：中嶋 哲彦（愛知工業大学）

12:30~13:00 大学における生涯学習支援:日韓比較の観点から

○金 亨善（中央大学）

13:00~13:30 フランスにおける非識字対策の変遷

—1980年代前半から2013年の国家の大義に選定されるまでの
期間に着目して—

○川端 映美（大阪大学）

13:30~14:00 異地域で暮らす中高生交流による地域創生探究学習

—持続可能な社会の実現に向けた『ワクワクみらい会議』—

○渡邊 雄貴（板橋区立西台中学校）

14:00~14:30 討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30~14:30

【一般 A-17】 カウンセリング・教育相談

司会：伊藤 秀樹（東京学芸大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30~13:00 | 児童生徒の精神的ストレスの客観的評価を目指して
—想定段階における自律神経活動および呼吸循環動態の変化—
○毛利 空広（中部大学）
平手 裕市（中部大学）
小嶋 和恵（中部大学） |
| 13:00~13:30 | こころの自己調整を育む予防的プログラムへの取り組み
—指導案に適切に反映するためのコツ—
○押山 千秋（北陸先端科学技術大学院大学）
西村 拓一（北陸先端科学技術大学院大学） |
| 13:30~14:00 | 子ども・若者の自死をめぐる諸問題
—その歴史・現状と理論的課題—
○前島 康男（元東京電機大学） |
| 14:00~14:30 | 討論 |

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】 8月23日(土)

8月23日(土) 12:30～15:00

【一般 A-18-2】 特別支援教育・特別ニーズ教育②

司会：越野 和之（奈良教育大学）

12:30～13:00 オーストラリア・クイーンズランド州の多元的なインクルーシブ教育

—先住民教育に焦点を当てて—

○原田 琢也（金城学院大学）

濱元 伸彦（関西学院大学）

堤 英俊（都留文科大学）

13:00～13:30 日本型才能教育システムの構造と機能
—ギフテッド教育との異同に着目して—
○関内 偉一郎（昭和女子大学）

13:30～14:30 生活モデルにおける児童発達支援の質再考察
—（教育的タクト）概念を手がかりに—
○鮎澤 俊平（森ノ宮医療大学）
○石田 真夕（ウェルビー株式会社・京都大学大学院）

14:30～15:00 討論

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【テーマ B-2-2】 学校のリアリティと教育改革の課題②

司会：太田 知実（明治大学）

- | | |
|-------------|--|
| 12:30～13:00 | ビーガン・インクルーシブな教育に向けての課題
○丸山 啓史（京都教育大学） |
| 13:00～13:30 | 「障害の人権モデル」を用いたインクルーシブ教育システムのための教員研修/授業を構想する
ーパターンリズム、チャリティモデルから脱却するためにー
○村田 観弥（立命館大学） |
| 13:30～14:30 | 日本で暮らすムスリムの子どもたちの教育をめぐる研究の現在地
○千田 沙也加（中京大学）
○内田 直義（就実大学）
○松本 麻人（名古屋大学）
○服部 美奈（名古屋大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【テーマ B-6-2】 教育学の問い直し②

司会：児美川 孝一郎（法政大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30～13:00 | 「環境教育思想史」研究序説
—1980年代の水俣を手掛かりに—
○佐野 良介（東京大学大学院） |
| 13:00～13:30 | 障害児通園施設「ひまわり教室」から見る共生概念の再検討
○金成 陽世（東京大学大学院） |
| 13:30～14:00 | 1970年代後半の国民教育研究所（民研）における学力調査の展開過程
○渡邊 真之（お茶の水女子大学） |
| 14:00～14:30 | 教員の離職をめぐるナラティブ・アプローチ
○伊勢本 大（松山大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【テーマ B-7-2】 子ども問題と教育・福祉②

司会：木戸口 正宏（北海道教育大学）

仲田 康一（法政大学）

- | | |
|-------------|--|
| 12:30～13:30 | 生活困難層家族の教育戦略のその後
—公営団地における継続インタビュー調査報—
○小澤 浩明（東洋大学）
○栗原 和樹（東京大学・日本学術振興会）
○前馬 優策（広島経済大学）
○松田 洋介（大東文化大学）
○三浦 芳恵（鹿児島大学）
山田 哲也（一橋大学大学院） |
| 13:30～14:00 | 貧困世帯の子どもの学習支援に取り組む大学生は、＜社会問題の教育化＞にどのように向き合っているのか
○松村 智史（名古屋市立大学） |
| 14:00～14:30 | 子どもの貧困は政策アクターにどのように認識されているか？
—2023年国会議員調査の分析—
○末富 芳（日本大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～14:30

【テーマ B-9】 Educational Issues from Global Perspectives

司会： 佐藤 仁（福岡大学）

藤村 祐子（滋賀大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30～13:00 | Global Leadership Programs at Japanese universities
—a survey of co-curricula undergraduate programs—
○バンキン サム（東京大学） |
| 13:00～13:30 | Bridging Identities: Navigating Cultural Integration, Career
Education, and Support Policies for Immigrant Generations
in Japan
○マヤ カオタル（筑波大学） |
| 13:30～14:00 | Professional Learning of Rural Teachers in China
—Preliminary Insights from Different Career Phases—
○張 覚琛（広島大学） |
| 14:00～14:30 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～14:30

【テーマ B-10】 高校探究学習の構造と実践

司会：高橋 亜希子（南山大学）

12:30～13:00 「総合的な探究の時間」を支えるカリキュラムマネジメント
—学校アンケート調査に基づく実態分析—

○川妻 篤史（桐蔭横浜大学）

13:00～13:30 正課授業と正課外活動の連携とエージェンシー醸成
—批判的思考力と創造性の育成に着目して—

○布柴 達男（国際基督教大学）

13:30～14:00 自己開示のツールとしての聴き書きの有効性
—共働的関係を育む探究学習による地域と高校の再接続—

○畑井 克彦（(公) 集団力学研究所）

14:00～14:30 討論

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【テーマ B-11】 日本の学校教育における音楽の存在理由

司会：多和田 真理子（國學院大學）

藤井 康之（奈良女子大学）

- | | |
|-------------|--|
| 12:30～13:00 | 学校音楽におけるヘルバルト主義受容
○杉田 政夫（福島大学） |
| 13:00～13:30 | 小学校音楽における美的陶冶論
○藤井 康之（奈良女子大学） |
| 13:30～14:00 | 新制高等学校における校歌の継承と再制定
—伝統とジェンダーをめぐって—
○須田 珠生（小樽商科大学） |
| 14:00～14:30 | 「歌う身体」の記憶
—昭和戦前期の学校儀式体験—
○有本 真紀（立教大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

Ⅲ プログラム

テーマ型研究発表【B】 8月23日（土）

8月23日（土） 12:30～15:00

【テーマ B-12】 地域コミュニティと教育

司会：丹間 康仁（筑波大学）

岡 幸江（九州大学）

- | | |
|-------------|---|
| 12:30～13:00 | 公設型学習塾における持続可能性の検討
—地域づくり、学校づくりの文脈による考察—
○照井 将人（長野大学大学院） |
| 13:00～13:30 | 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のこれから
—「地域とともにある学校」は企業による CSV 経営といかに
接合し得るか—
○早坂 淳（長野大学） |
| 13:30～14:00 | 地域史学習における自治体史誌と高等学校図書室
—広島県の事例を中心に—
○鴨頭 俊宏（広島大学） |
| 14:00～14:30 | 地域づくり・まちづくり論における住民の学習の位相
○荻野 亮吾（日本女子大学） |
| 14:30～15:00 | 討論 |

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30～17:30

【1】戦後の「地方カリキュラム」と「地方学力テスト」の研究

—全国調査による資料の収集・整理・検討から—

企画者：高橋 寛人 (石巻専修大学)

司会者：高橋 寛人 (石巻専修大学)

報告者：金馬 国晴 (横浜国立大学)

北野 秋男 (日本大学)

指定討論者：山口 満 (筑波大学(名誉))

《趣 旨》

占領下、地域の特性や子どもの興味関心に基づくカリキュラム編成が可能になり、全国の学校でカリキュラムの研究と開発が行われました。また、C I Eや地方軍政部が標準学力テストを推奨したため、全国各地の教育研究所や教育委員会で学力テストが開発され実施されました。

金馬国晴・安井一郎・溝邊和成氏により『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』が2018～22年に刊行されました。当時の全国の学校のカリキュラム資料が収録されています。「東日本編」第1～3巻、「西日本編」第4～7巻、「附属学校編」第8～9巻、「附属学校編補遺・境界編」第10巻、「中学校編」第11～13巻、「諸団体編」第14～15巻、「補遺・一般校編」第16巻です。

北野秋男氏による『戦後学力テスト研究資料集』は「北海道・東北地方編」「関東地方編」「北信越・東海地方編」「関西編」「中国・四国編」「九州・沖縄編」の全6巻で2024～25年の刊行です。戦後地方で独自に実施された標準テストの開発・実施に関する資料を集録しています。

これら2つの研究資料集の資料は、学校、教育研究所・センター、教育委員会、県立・市町村立図書館などに調査に赴いたり、当時の学校や担当者・司書から提供を受けて収集したものです。集録された膨大な資料を多くの研究者に自らの研究関心に応じて活用していただき、教育課程や学力に関する研究の発展を図りたいと思います。

そこで2つの研究資料集の作成・編集者に、資料集作成の方針、資料収集のプロセス、集録資料の内容、これまでの分析などを報告してもらいます。そして、研究資料集の活用の方法や可能性について、カリキュラム研究、学力研究、教育史研究など教育学の様々な観点から検討したいと考えます。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30～17:30

【2】教育学の研究・教育における倫理的問題を考える

企画者：勝野 正章 (東京大学大学院)

寺崎 里水 (法政大学)

伊藤 健治 (札幌大学)

報告者：勝野 正章 (東京大学大学院)

寺崎 里水 (法政大学)

伊藤 健治 (札幌大学)

《趣 旨》

本学会の倫理委員会は、2023年8月26日に改訂・施行された日本教育学会倫理綱領の附則(3)に基づき、教育学の研究・教育における倫理的問題に対応するために設置された。このラウンドテーブルでは、倫理委員3名が普段の研究・教育のなかで感じたり、考えたりしている倫理的問題について話題提供し、その後、参加者の問題意識や経験を交流することにした。話題提供の内容は、デジタル化・AIの発展に伴って生じている研究・教育上の倫理的問題、子どもの権利救済に関する研究と活動に関わる倫理的問題、子どもが主体として参加する研究(research with children)の倫理的問題、研究・教育の場におけるハラメントと学会が果たすべき役割などであるが、当日はこうした話題提供のテーマに限らず、自由に様々な倫理的問題について共に考えあえるようにしたいと考えている。そうした対話を通じて、本学会の倫理綱領の意義と内容を改めて認識し、更なる改訂の必要性や倫理委員会の今後の活動への示唆を得ることが、本ラウンドテーブルの目的である。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【3】篠原助市は「国家」をどう語ったか

—新カント派哲学と教育学との交錯—

企画者：深見 奨平 (宮崎大学)

宮本 勇一 (岡山大学大学院)

佐藤 宗大 (玉川大学)

報告者：深見 奨平 (宮崎大学)

宮本 勇一 (岡山大学大学院)

佐藤 宗大 (玉川大学)

下山 史隆 (京都大学大学院／日本学術振興会特別研究員)

指定討論者：桑嶋 晋平 (日本女子大学)

《趣 旨》

戦後教育学は「国家か国民か」という二項対立的な図式を前提に、国家と教育との関係を否定的に捉えてきたと言われる。今日、このような二項対立を解消し、教育理論の中に国家の役割を定位する試みがなされてきている。教育の公共性、グローバリゼーション、市民社会と国民国家の関係等、様々な文脈で教育に対する国家の役割が問われる中、こうした研究は高い意義をもつ。

この現代的な問題関心を共有する企画者らは、これまで戦前期に日本の教育学体系の構築を成した教育学者・篠原助市の新カント派哲学受容について研究してきた。篠原は1920年代から新カント派のナトルプやヴィンデルバント、および歴史学派のディルタイらに依拠して教育学の体系化を図ったが、1930年代以降は国家主義への傾倒を強めていったと言われている。

しかし、企画者らによる篠原文庫調査では、篠原が日本民族論的な文献を大量に所持しながらも、1930年代にはほとんど手を付けていないことがわかっている。また、篠原の新カント派読書には、ナトルプの社会国家主義的な著作への言及を避けるなど、意図的な取捨選択も見られる。これらの事実を踏まえ、1930年代の篠原が国家主義に傾倒することなく、その教育学体系の中に国家を理論的に位置づけようとしていた可能性を見出したい。

本ラウンドテーブルでは、まず企画者による篠原文庫調査および主に1930年代における国民形成論についての報告を行う。続いて、勝田守一の教育学の視点から桑嶋晋平氏に、新カント派哲学の視点から下山史隆氏にご意見をいただく。その後、参加者との討議を行う。

なお本ラウンドテーブルは科学研究費助成事業 基盤研究(C)23K02061「篠原助市教育学の形成過程に関する教育学説史的研究：新カント派受容に着目して」および基盤研究(B)24K00017「昭和戦前期における新カント派価値哲学の展開・意義・特色」の支援を受け行われる。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【4】チェンジラボラトリー

—文化・歴史的活動理論にもとづく教育研究の新しい方法—

企画者：山住 勝広 (関西大学)

報告者：山住 勝広 (関西大学)

山田 直之 (関西大学)

朝倉 恵 (関西大学大学院)

楊 晨 (関西大学大学院)

《趣 旨》

チェンジラボラトリーは、文化・歴史的活動理論にもとづき、自分たちの活動システムを自分たち自身で形作ろうとする人びとの拡張的学習に介入し、その過程を促進・支援する具体的な研究方法である。ここで拡張的学習とは、現在の自分たちの活動の矛盾を乗り越え、活動システムをいかに変革していくかを学ぶ、新しいタイプの学習である。

フィンランド、ヘルシンキ大学のユーリア・エンゲストロームの研究グループによって1990年代半ばに生み出されたチェンジラボラトリーは、デザインベース研究のような多くのリニアな介入研究とは根本的に異なる、参加型でボトムアップの独創的な研究法として、近年、国際的な注目を浴びている。

チェンジラボラトリーでは、実践者・関係者と研究者が集まり、参加型の分析とデザインを行う熟議のセッションを連続して開き、自分たちの活動システムの変革に協働で取り組んでいく。こうした一連のセッションが、参加者の拡張的学習を引き起こし支援するのである。そこでは、拡張的学習を生み出すためのさまざまな手立てが準備される。こうしてチェンジラボラトリーでは、自分たちで、現実の核心的な矛盾を分析し、実践の「最近接発達領域」を探し出し、新しい概念を形成しながら、具体的な実践を実行していく、参加者自身による協働の拡張的学習が創発されていく。

本ラウンドテーブルでは、次のような報告により、チェンジラボラトリーが教育研究の新しい方法としてもちうる可能性について検討し、提起していきたい。

- ・山住勝広「拡張的学習を生み出すチェンジラボラトリーによる新しい教育研究」
- ・山田直之「教職課程担当教員の力量形成としてのチェンジラボラトリー：『教育研究』と『教員養成』の交差点で拡張的学習を捉える」
- ・朝倉恵「高等学校の探究的学びにおけるチェンジラボラトリー導入プロセスの検討」
- ・楊晨「中国におけるチェンジラボラトリー研究の動向」

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日（土） 15：30～17：30

【5】これからの授業作りに向けた実践の記述と分析

—「初志の会」の実践とエスノメソドロジー・会話分析の対話から—

企画者：五十嵐 素子（北海学園大学）

報告者：五十嵐 素子（北海学園大学）

鎌田 和宏（帝京大学）

齊藤 和貴（京都女子大学）

森 一平（日本大学）

《趣 旨》

度重なる教育改革の流れにおいて学校教育に様々な期待が寄せられるなか、授業の省察の手法も変化に対応したものが求められている。本企画では、社会科の初志をつらぬく会（以下「初志の会」とする）とエスノメソドロジー・会話分析という異なるアプローチが対話することで、日本の授業研究の取組が残してきた豊かな蓄積を引き継ぎながら、その記述・分析の方法を、実践と研究の双方においていかに発展させることができるのかを考えたい。

まずは、日本の授業研究の蓄積の一例として、「初志の会」のアプローチに光を当てる。戦後の社会科教育黎明期に端を発し、実践家たちが授業記録を丹念に読み解き、子ども理解を中核に据えた授業作りを探求してきたこの伝統は、今日の授業研究の基盤の一端を形成しているといえる。とりわけ、授業における事実を見つめることを徹底し、それをもとに個々の児童・生徒の背景や課題を深く読み取り、その理解から授業づくりを構想しようとする姿勢は、現場の教師の力量形成を促す姿勢として広く共有されてきたものといえる。本企画ではこうした手法を改めて振り返り、その意義を再確認する。

次に、近年日本の研究者によって授業分析に取り入れられてきた分析アプローチとして、エスノメソドロジー・会話分析（EMCA）を取り上げる。この手法では会話のみならず、教材・教具、黒板といったものを媒介とした教師と児童・生徒のやりとりが丹念に書き起こされ、相互行為を通じた、授業規範の様相や、相互理解の達成、知識共有のプロセスが詳細に分析されてきた。このような手法がどのようなものかを紹介し、これからの学校教育において、教員の授業づくりに活かす可能性について検討する。

本ラウンドテーブルでは、上記の趣旨のもと各氏にご報告いただき、参加者とともに議論を深めていきたい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日（土） 15：30～17：30

【6】アメリカにおける公教育と教職の再検討

—政治的分断のなかで問われる応答性—

企 画 者：間篠 剛留 （日本大学）
司 会 者：西野 倫世 （滋賀大学）
 森本 和寿 （大阪教育大学）
報 告 者：長嶺 宏作 （埼玉大学）
 宮口 誠矢 （東北大学大学院）
 古田 雄一 （筑波大学）

《趣 旨》

近年アメリカにおいては、政治的分断が深刻化するなかで公教育が大きく揺らぎ、教職の専門性も再検討を迫られている。教育内容やカリキュラムのあり方が激しく争点化し、教員の発言や職務そのものが党派的对立のなかで評価・攻撃の対象となっている。教育が中立的な営みであると前提することはもはや困難であり、教職の専門性に対する信頼や社会的承認は分裂した状況に置かれている。

こうした政治的・社会的分極化のもとで、公教育の制度設計もまた大きな転換を迎えている。連邦政府の主導性が後退し、「ローカル・アカウンタビリティ」と呼ばれる地域主導の教育改革の在り方が顕在化している。この過程では、知事と議会の党派の違いや地域社会内の利害の分裂など、複雑な力学が交錯するが、同時に地域の現実に即した教育と教職のあり方を模索する機会が生まれているともいえる。また、ホームスクーリングなど制度の外縁にある実践も拡がり、部分的に学校と接続する事例も見られるようになった。学校の教師にも多様な学びへの理解が求められるようになり、教職の専門性は制度内に閉じず、家庭や地域との関係の中で動的に構築されつつある。さらに、教育内容の正統性や公共的議論の場としての学校の役割も問われ、専門性は知識の伝達を超えて、社会における応答的な関係性のなかで再定位されつつある。

本ラウンドテーブルでは、政治的分断のただなかにある現代アメリカにおいて、公教育と教職が果たすべき役割と、その専門性のあり方を再検討する。とりわけ、制度的資格や知識の体系によって構成される専門性ではなく、子どもや市民、保護者といった教育の受け手との間で築かれる応答性を中核に据え、社会的信頼をいかに再構築しうるかを問う。学校制度の境界が揺らぎ、教育の意味自体が一致しがたい時代にあって、教職が果たしうる公共的意義と責任のかたちを捉え直す視座を探りたい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【7】「つくる」という営みに見いだす保育の可能性

—お茶の水女子大学附属幼稚園での実践を手がかりにして—

企画者：酒井 朗 (上智大学)
 横井 紘子 (十文字学園女子大学)
報告者：酒井 朗 (上智大学)
 横井 紘子 (十文字学園女子大学)
 佐藤 寛子 (お茶の水女子大学附属幼稚園)
 佐々木 麻美 (お茶の水女子大学附属幼稚園)
 辻谷 真知子 (お茶の水女子大学)
 松島 のり子 (お茶の水女子大学)

《趣 旨》

現行の幼稚園教育要領には、幼児期の教育は「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」とある。幼児が主体的に環境に関わることを通して、幼児期にふさわしい生活が展開され、幼児にとって必要な体験が得られるように、教師は計画的に環境を構成する必要がある、とされている。

ただし、現行の要領では「幼児期にふさわしい生活」や、発達に「必要な体験」の具体的な内容は示されていない。要領の文言は抽象的・形式的であり、実際の保育内容や保育環境をどのように具体化していくかは、各園の創意工夫に委ねられているとも言える。

その中で、お茶の水女子大学附属幼稚園（以下お茶大附属幼稚園）は、子どもたちが主体的に遊ぶことを重視している園であり、「ものをつくる」子どもの営みを重視してきた。2023・2024年度の園の実践研究『「つくる」がうまれる暮らし』は、「つくる」体験の意義を子どもの側から問うものであるが、これは幼児期に「必要な体験」の具現として、「つくる」という体験を提示しているといえる。この実践研究は、子どもが「つくる」体験の意味と、「つくる」営みを意味づけ支える教師の「まなざし」を明らかにするとともに、「つくる」を通して子どもが自分の世界を広げ、深めていくプロセスと背景を描いている。

本企画は、この実践研究が幼稚園の教育課程編成に対して持つ意義を検討する。この実践研究の成果を踏まえ、現行要領にある「幼児期にふさわしい生活」や子どもの発達に「必要な体験」とは何かについて、さらに、それらを計画し、指導・評価する保育者の役割について問い直し、幼児教育の今日的課題とこれからの幼児教育の在り方について考察する。当日は最初にお茶大附属幼稚園の教員から実践研究の内容を報告し、それを踏まえて哲学、教育史学、教育学の視点から、本実践研究の意義について報告した上で、参加者と協議を進めていきたい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【8】想像力をときはなつ

—社会を変えるアート/教育はいかにして可能になるのか—

企画者：上野 正道 (上智大学)
 桐田 敬介 (武蔵野学院大学)
司会者：桐田 敬介 (武蔵野学院大学)
報告者：木村 浩則 (文京学院大学)
 近藤 真子 (文教大学)
 園部 友里恵 (三重大学大学院)
指定討論者：田村 恵美 (東京家政大学)
 亘理 陽一 (中京大学)

《趣 旨》

アメリカ合衆国の教育哲学者マキシ・グリーン(1917-2014)の晩年の主著である *Releasing the Imagination: Essays of the Arts, Education, and Social Change* の初訳が2025年3月になされた。当訳書の邦題は『想像力をときはなつ——アートと教育が社会を変える』とされている。この副題は、マイノリティ、マジョリティの生きる異なる生活世界に響いている「声」(voice)に人々とともに耳を澄ませるアートを中心にした教育が、自他に内在化された無自覚な抑圧に気づく「衝撃」(shock)を受けとめさせ、所与の社会に複数の不可視かつ周縁的な現実性が実在することの自覚を深める「公共圏」(public sphere)を構成する手立てとなること、すなわち「社会変化」(social change)への想像力を喚起することをより明示するものとなっている。

本ラウンドテーブルでは、グリーンが共通の分母を持たぬ人々の間でなお共通世界を構成する複数主義(pluralism)への情熱を持っていたことを範とし、異質な観点を持つ報告者による、アートを介して想像力をときはなつ教育思想・教育実践への提言を行う。具体的には、木村会員がグリーン教育思想と演劇を媒介とする学校・社会教育の観点から、近藤会員が音楽づくりによってエージェンシーを涵養する音楽教育の観点から、園部会員がジェンダー意識への自覚を深める即興演劇のワークショップを通じた教師教育の観点から、それぞれの専門領域がいかに想像力の喚起を促すものであるか論じることを試みる。そしてこれらの報告を踏まえ、田村会員に教育格差と教育方法学の観点から、亘理会員に英語教育と教育方法学の観点から、いまだ実現し得ていない公共圏の構成への道筋を討論する主題を提示いただき、議論の場を開くことを試みる。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【9】学校改革・学校改善を追求する授業研究の論点

—二つのアプローチを対比して—

企画者：奥村 好美	(京都大学大学院)
鈴木 悠太	(東京科学大学)
報告者：奥村 好美	(京都大学大学院)
鈴木 悠太	(東京科学大学)
指定討論者：Sarkar Arani Mohammad Reza	(名古屋大学)
野村 和之	(千葉大学)

《趣 旨》

授業研究は、2000年頃から国際的に認知されるようになり、直接的・短期的な学習指導の改善にとどまらない、文化的営みである学習指導の長期的・漸進的な改善（Stigler & Hiebert, 1999）や、教室レベルにとどまらず学校レベル、時に全国レベルでの教育改善（Lewis, 1998）を生み出しうる意義が注目されてきた。本ラウンドテーブルは、授業研究を自覚的・意図的に学校レベルの改革・改善につなげるためには、いかなるアプローチが考えられるのか、そこでの論点は何かという問いに取り組むことを目的とする。

本ラウンドテーブルの契機は、これらの問いに取り組み、国際的にその知見を発信した2冊の著書——鈴木悠太による *Reforming Lesson Study in Japan: Theories of Action for Schools as Learning Communities* (Suzuki, 2022)、奥村好美による *Educational Evaluation and Improvement in Japan: Linking Lesson Study, Curriculum Management and School Evaluation* (Okumura, 2023) ——にある。Suzuki (2022) は、なぜ教師たちが授業研究の改革を中心に「学びの共同体」としての学校改革を追求し、そこで何が生じていたのかに焦点を合わせている。一方、Okumura (2023) は、いかに授業研究、カリキュラム・マネジメント、学校評価をつないで教育の質を改善しうるのかに焦点を合わせている。どちらも日本国内の学校における授業研究実践の礎によっている。両者のアプローチを対比的に検討し、それらの共通性や差異を探究することが本ラウンドテーブルの主題に迫る上で鍵を握るだろう。

具体的には、鈴木と奥村がそれぞれのアプローチの特筆すべき点をクリティカルに検討した上で、国際的に教育学研究を展開してきた Sarkar Arani Mohammad Reza と野村和之を交えたディスカッションを行う。さらに、この二つのアプローチにとどまらない今後の授業研究の可能性について、フロアも交えた活発な議論を交わしたい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日（土） 15：30～17：30

【10】 高校教育機会の現状と未来を考える

企 画 者：相澤 真一 （上智大学）
 児玉 英靖 （洛星中学・高等学校）
 香川 めい （大東文化大学）
司 会 者：荒井 英治郎 （信州大学）
報 告 者：相澤 真一 （上智大学）
 児玉 英靖 （洛星中学・高等学校）
 香川 めい （大東文化大学）

《趣 旨》

生徒たちが高校教育を受ける機会をめぐる社会環境が急激な変化にさらされている。最も根源的な変化の要因は少子化である。少子化によって、公立、私立を問わず、学校の存続が難しくなる事例が全国で噴出している。ここでの機会の配分をめぐって、私立高校も含めた所得制限のない授業料無償化の導入や公立高校の併願の検討などが政治的課題にもなってきている。一方で、21世紀に入ってから高校の統廃合、2010年代の高校無償化政策の導入といった政策に対して十分な実証的評価が行われておらず、日本の教育学研究者の集まりである教育学会が政策提言に対して有効な見地を持っているかということ、いささか心もとないところがある。

そこで、2014年に『＜高卒当然社会＞の戦後史』を出版し、その後も東アジアの中等教育拡大と少子化、公立と私立の配分構造の解明、私立高校の少子化の対応、もともと小規模校が多かったカトリック高校の研究などをそれぞれ進めてきた著者たちが再度集まり、声を聴き合うラウンドテーブルを設けたい。統計的な数字から見えるもの、地域として見えるもの、職場としての高校から見えるもの、多面的に見える高校教育機会の現状と未来について、1. 統計的な数字の整理、2. 特徴的な県の動き、3. 学校経営・学校運営からの観察などを報告した上で、気軽に意見を交換できる場としたい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【11】移民生徒の公教育への包摂

—国際比較から考える教育機会と母語・母文化の保障—

企画者：額賀 美紗子 (東京大学大学院)

報告者：額賀 美紗子 (東京大学大学院)

三浦 綾希子 (中京大学)

布川 あゆみ (東京外国語大学)

徳永 智子 (筑波大学)

金 侖貞 (東京都立大学)

高橋 史子 (東京大学)

《趣 旨》

21世紀に入り、グローバル化と技術革新を背景とした人々の国際移動は一層加速し、先進諸国は移民・難民の流入をかつてない規模で経験している。日本も例外ではない。外国人労働者の家族呼び寄せと定住化が進む中、日本に暮らす移民の子どもの数はこの30年間で急増している。こうした人口構成の変容を背景に、移民の子どもたちの教育機会とウェルビーイングをいかに保障し、受け入れ社会への統合をいかに促すかは、日本を含む先進諸国にとって喫緊の課題である(OECD 2021)。

このような課題に対して、公教育の包摂性には大きな期待が寄せられている。学校に通うことを通じて、移民の子どもたちは受け入れ社会で必要とされる言語、知識、スキルを獲得し、自らのケイパビリティを拡張することが可能になるとされる。一方で、国内外の多くの研究は、学校が移民の子どもたちに十分な教育機会を保障できておらず、むしろ社会的不平等の再生産装置となっている側面を指摘している。

本ラウンドテーブルでは、日本、韓国、台湾、ドイツ、スウェーデンの5カ国を対象に、増加する移民生徒を公教育に包摂するため、各国の学校が講じている方策を、教員や政策関係者などステイクホルダーへのインタビューデータをもとに検討する。分析の第一の視角は、「中退予防」である。近年の文部科学省の調査によれば、日本語指導を必要とする生徒の高校中退率は、全体と比べて著しく高い。こうした状況について学校現場の教員はどのように認識し、制度的・実践的に対応しているのかを検討する。第二の視角は、「母語・母文化の保障」である。日本では移民の子どもたちの母語や母文化を「子どもの権利」として位置づける視点が希薄であるが、諸外国ではこれを公教育の中で積極的に支援する例が見られる。各国の制度や実践を参照しながら、日本の学校が移民生徒の包摂に向けて有する強みと課題について検討を深めたい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【12】日本の学校・家庭・社会の貧困化と DEI の遅れ

—国際学力調査 PISA と全国学力・学習状況調査のデータサイエンスから—

企画者：田端 健人 (宮城教育大学)

司会者：市瀬 智紀 (宮城教育大学)

報告者：田端 健人 (宮城教育大学)

市瀬 智紀 (宮城教育大学)

本図 愛実 (宮城教育大学)

平 真木夫 (宮城教育大学)

指定討論者：山田 美都雄 (宮城教育大学)

原田 信之 (中京大学)

《趣 旨》

日本の学校と社会の貧困化は危機的であり、DEI (Diversity Equity Inclusion) には深刻な遅れがある。これは、私たちがこれまで大規模学力調査を分析して得たショッキングな知見である。この危機的状況を等閑に付していれば、日本の学校と社会は取り返しのつかない負のスパイラルに入ってしまう。あるいはもう陥っているかもしれない。この危機感から本ラウンドテーブルを企画した。

まず、この危機意識のもとになる各種指標の分析結果を提示する。例えば、PISA2022 の ESCS 指標 (Economic Social Cultural Status: 経済社会文化的背景) で、日本は 81 参加国・地域の平均以下であり、韓国との差は大きい。ジェンダー・ギャップでは、数学的リテラシーの学力値に男女差がないにもかかわらず、「数学的推論と 21 世紀的な数学に対する自己効力感」の低さや「数学に対する不安」の高さで日本の生徒には大きな課題があり、特に女子は驚くほどの程度に達している。日本の学校では、特に理数教科の学びの意味喪失が進んでおり、特に日本女子で深刻である。エスニシティについては、日本や韓国は欧米諸国とは比べ物にならないほど閉鎖的である。こうした DEI の遅れは、不登校やいじめ問題等とも連動するだろう。

データを国際比較すると、韓国、ドイツ、イギリス、オーストラリアが対照国として興味深く見えてくる。例えばドイツは、移民の受け入れにより、学力値と ESCS が低下しているが、学校への帰属意識や協働学習や共感性が非常に高く、エスニシティのインクルージョンに成功しているように見える。こうした分析結果も、本ラウンドテーブルで示したい。

また、ESCS 低下がどのような悪影響や悪循環をもたらすかを、様々な変数との相関や学力構造分析により数量的に示すとともに、学校現場のどのような現実となって現れるか、校長経験者への聞き取り調査から質的データでも示す予定である。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【13】教師の専門性と自律性の制度的保障における教員スタンダードの意義と限界

—米国ワシントン州の実践を教科・内容から再検討する—

企画者：藤村 祐子 (滋賀大学)

司会者：遠藤 貴広 (福井大学)

堀田 諭 (埼玉学園大学)

報告者：藤村 祐子 (滋賀大学)

佐藤 仁 (福岡大学)

黒田 友紀 (日本大学)

川口 広美 (広島大学大学院)

朝倉 雅史 (筑波大学)

指定討論者：木場 裕紀 (東京電機大学)

《趣 旨》

教職の専門性および自律性の確保に向け、米国では「教職の専門職化」と「アカウンタビリティ」という二重の論理を内包した教員スタンダード政策が展開されてきた。日本でも近年、教員スタンダードの導入が注目され、それが専門性と自律性の保障として機能するのか、あるいはアカウンタビリティを基盤とする政策的文脈に取り込まれるのかが重要な論点となっている。

本ラウンドテーブルでは、米国ワシントン州を事例に、教育行政から独立した教職専門基準委員会(PESB)が教員スタンダードをどのように策定し、教員養成や研修にいかに関与しているかを検討する。検討では、「教科(subject)」および「教育内容(content)」の視点を導入することで、教員・教育行政関係者や大学教員など多様なアクターの関与に加え、教科教育を取り巻く法制度、文化、政治的力学といった多層的要因がスタンダードに与える影響を明らかにする。

たとえば、教科・教育内容領域の教員スタンダードは、州教育監督局が作成する「子どもの学習基準」との整合性が求められるため、PESBは教科・教育内容に関する専門家の組織化だけでなく、専門家間の対立調整や合意形成のマネジメントも担う。

このような策定・活用プロセスの分析を通じて、教職の専門性および自律性の理解を再構成することが可能となる。それは、専門性を単なる教員スタンダードの明示ではなく、そして自律性を単なる行政からの独立ではなく、制度的・文化的・政治的要因との交渉を通じて構築される動的かつ関係的な概念として捉える視座の提示である。本ラウンドテーブルを通じて、従来の教員スタンダード研究の限界を明らかにし、教職の専門性および自律性の理論的再定義に向けた契機を提供したい。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【14】教師教育・研修プログラムの開発に関する日蘭共同研究

ーオランダ教師教育の現状と課題ー

企画者：辻 直人 (和光大学)
 田村 真広 (日本社会事業大学)
 上森 さくら (金沢大学大学院)
 持田 洸 (富山大学)
司会者：辻 直人 (和光大学)
報告者：田村 真広 (日本社会事業大学)
 上森 さくら (金沢大学大学院)
 持田 洸 (富山大学)

《趣 旨》

本研究は、日本とオランダの研究者・教育者によって新たな教師教育・教員研修プログラムの模索と開発を行うことを目的とする(科研費課題番号:25K05847)。そのきっかけとなったのが、日本人教師金森俊朗の教育論や実践から学びたいオランダの教育関係者が2023年より始めた金森集会である。

ユネスコの“Global Report on Teachers”(2024)が示すように、世界の教師不足は日本だけでなく世界的な問題となっており、オランダも例外ではない。オランダの学校教育は理想的な環境と評されることが多いが、教師不足と同時に教師の資質について危機感を抱いている人たちもいる。

そのような状況の中、2023年から上述の金森集会が始まった。石川県の元小学校教師金森は2003年放映のNHKドキュメンタリー「涙と笑いのハッピークラス 4年1組命の授業」で世界的に評価された。2012年にはオランダで17回の講演を行い、同国内で広く知られている(金森、辻『学び合う教室 金森学級と日本の世界教育遺産』第3章参照)。

本企画者の一部(辻、田村、上森)も参加した2023年9月の金森集会(Wijchen市)では金森の教育論について触れながら、参加者25名が教師のライフストーリーを共有し合い、レジリエンス(回復力)を高める試みが行われた。2024年9月には第2回集会がEde市で開催され、参加者は90名を超えた。同集会を案内したSNSには1000人を超える人が登録していることから、多くの教育関係者に同集会が注目されていることが分かる。

日本の教育実践を世界に発信し、交流の機会を設けることで教師のレジリエンスを高めようとする試みは、今後の日蘭両国における現職教員研修の新しいあり方の検討に寄与すると考える。今回は、オランダでの金森集会に至るまでの経緯と金森俊朗の受容実態、オランダ教師教育に関する実態をより広い視野で明らかにした上で、この日蘭共同研究がどのような意義を持つのかについて論じる。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【15】探究と乳幼児教育

一園・大学・行政の協働の可能性とその意義―

企画者：小玉 亮子 (お茶の水女子大学)
司会者：小玉 亮子 (お茶の水女子大学)
報告者：浅井 幸子 (東京大学)
野澤 祥子 (東京大学)
清重 めい (東京大学)
山岸 日登美 (まちの保育園 こども園 ペダゴジカルチーム ディレクター JIREA ボード)

《趣 旨》

ジャン・ジャック・ルソーは、「繰り返して言おう、教育は誕生とともに始まる」と彼の著書である『エミール』の中で論じている。この言葉を借りて「探究は誕生とともに始まる」と試みてはどうだろうか。そして、この二つの文章を踏まえるなら、乳幼児教育と探究の関係について、私たちは正面から議論する必要があるのではないだろうか。

現在、高等学校の教科名の中で「探究」という言葉が使われるようになっており、中学校でも小学校でも総合的な学習の時間におけるキーワードは「探究」である。これに対して、現在の『幼稚園教育要領』の中ではかろうじて探究心という言葉が散見される程度に過ぎない。しかし、そもそも乳幼児が世界を探究していることはよく知られていることではないだろうか。乳幼児が指をしゃぶり、手のひらを眺め、目の前のものを触って動かしてみている光景は、乳幼児を知る人ならば容易に目に浮かぶ。このことから子どもたちが生まれた時から、この世界をさまざまにアプローチし、探究しているということはすぐに理解できるのではないか。

この世界についての探究は生まれた時から始まっているという立場から、幼児教育のあり方を考えるとというのが本ラウンドテーブルの目的である。その際に参照するのは、レッジョ・エミリアの幼児教育であり、そこにインスパイアされた幼児教育実践である。そこでは、ゴールが設定され、そこへ向けた道筋が準備された教育ではなく、子どもたちの問いから始まる子どもと大人がともに構築する文化実践の試みがなされている。

2023 年度より東京都において、幼児教育における探究活動の試みが後押しされてきた。この試みのうち、福生市の聖愛幼稚園とすみれ保育園で進められている実践を具体的に検討しながら、幼児教育における「探究」について、実践の試みと、それを可能にする園と大学と行政との協働の可能性とその意義について議論を試みたい。

Ⅲ プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30～17:30

【16】イタリアにおけるインクルーシブ教育の魅力と課題

一日米との比較をふまえてー

企画者：高橋 春菜 (盛岡大学)
司会者：高橋 春菜 (盛岡大学)
報告者：大内 進 (星美学園短期大学)
 大内 利彦 (横浜市特別支援学校教員)
 黒澤 こと美 (神奈川県政策局)
 羽山 裕子 (滋賀大学)
 杉野 竜美 (神戸医療未来大学)
 徳永 俊太 (京都教育大学)

《趣 旨》

本ラウンドテーブルの趣旨は、日本の実態に照らして、イタリアにおけるインクルーシブ教育の魅力と課題の両面について、具体的に問題提起すること、これらをきっかけとして、今後のありかたを新たな可能性として模索することである。学校、地域、行政の観点から、現地調査を通じて見えてきた具体的事項を提示しつつ、イタリア社会や教育の背景を踏まえた議論を目指す。

また、アメリカの実態と分析という第3軸を参照することで、日本及びイタリアの特徴の輪郭を多角的に浮き彫りにしつつ、より豊かな展望を描くことができると考える。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日（土） 15：30～17：30

【17】教育の制度と身体、あるいは自由について

企 画 者：佐藤 晋平 （文教大学）
桐村 豪文 （大阪教育大学）
馬場 大樹 （鳴門教育大学）

《趣 旨》

教育制度を形作っているのは公的な権力か、それともそれ以外のなにかか？

前者の視点から、教育制度・行政・政策等の諸研究は公的権力や公的セクターを研究対象とすることに固有の意義があるかのように研究群を構成してきた。だが教育の政策・行政が昨今のような迷走状況では、公的権力の衰退と別の力の浮上を真剣に検討しなければならない。真に重要なのは、消費文化・情報テクノロジー・資本主義の巨大な影響下にある社会、そしてそこを生きる身体のありようだろう。現代社会の諸力の影響下で、気づいたときにはすでに強くなにかを欲望しまた忌避している、私たちの身体。公の権威がそこに迎合し失墜するのに、民主主義の名はある面では有効に機能しているだろう。

一般社会を生きる消費者のみならず、子どもも保護者も、教師も、政治家も、みな現代の社会の諸力に飲み込まれているなかで、面倒な議論・葛藤を必要とする民主主義とそこへの教育を、公的機関は葛藤を忌避する諸身体の欲望へ屈することなくまだ権威づけることができるのか？身体の欲望を捕捉するテクノロジーが社会レベルで柔軟なシステム（制度）を張り巡らせることができるなら、公的権力は教育制度を形作る機能を社会（≒市場？）に譲るべきか？あるいは反対に、身体の次元から考え始めて教育制度のなんらかの公的性格へたどりつくことはできるだろうか？

以上のような問題意識から、本ラウンドテーブルでは教育制度・行政・政策と身体の接点を考える。実験的な研究でもあり、巨大な問題意識に比してわずかなことしか提示できない可能性はあるが、教育政策・行政を駆動させる諸権力と身体の共犯関係／緊張関係や、身体の次元からの考察で見えてくる教育制度の姿などに迫る視点を示せば、と思う。さまざまな研究領域の方々と意見を交換したいと考えている。

III プログラム

ラウンドテーブル 8月23日(土) 15:30~17:30

【18】ポスト・ソビエト諸国における教育学研究動向

—“Decolonization”と“New Knowledge”という視点からの検討—

企画者:	澤野 由紀子	(聖心女子大学)
司会者:	白村 直也	(岐阜大学)
報告者:	澤野 由紀子	(聖心女子大学)
	MISOCHKO GRIGORY	(京都外国語大学)
	タスタンベコワ クアニシ	(筑波大学)
	木之下 健一	(目白学園大学)
	黒木 貴人	(福山平成大学)

《趣 旨》

ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)解体から34年、国際情勢が大きく変化するなかで、旧ソ連から独立した諸国の教育学研究はどのような方向に進んでいこうとしているのだろうか。1990-2000年代はロシアを中心にソビエト教育科学の影響を払拭し、研究のテーマや研究方法において北米と西欧の教育学研究に学び、グローバルな学界に積極的に参入する動きがみられたが、近年は研究者の世代交代も進む中で“Decolonization”や“New Knowledge”という概念が教育学研究の内容・方法の見直しの論議において用いられることが多くなっている。本ラウンドテーブルでは、報告者がそれぞれ注目している旧ソ連の国・地域と研究の専門領域の最新の教育研究の動向を中心に話題提供を行いながら、こうした視点の妥当性について検討する。

プログラム 第二日

8月25日（月）

課題研究Ⅰ

総会

日本教育学会奨励賞授賞式

公開シンポジウム

III プログラム

課題研究Ⅰ 8月25日(月) 9:00~12:00

課題研究Ⅰ

人口減少社会における地域と学校・大学

企画趣旨

日本の人口減少はコロナ禍を経て加速し、2024年に国内で生まれた日本人の子どもは70万人を下回ると推計されている。これは統計のある1899年以降、過去最少にあたる。

このような人口減少社会日本において、学校・大学の統合・改廃、教育の地域的再編は、教育政策における重要かつ喫緊の課題となっている。すでに2015年には、文部科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が出され、全国で、学校統廃合や、実質的な統廃合である小中一貫の義務教育学校の設立が進められてきた。高校でも同様に「適正規模」化が推し進められている。また、2024年度末の中央教育審議会「我が国の「知の総和」向上の未来像(答申)」では、「規模」の適正化、「アクセス」の確保、「質」の向上を掲げつつ、教育・経営改革への支援と並んで、縮小・撤退の支援が打ち出された。このような状況にあって、どうすれば、学校づくりと地域づくり、初等中等教育と高等教育を架橋して、人口減少社会の未来を切り拓いていくことができるだろうか。

本研究課題では、初等教育、中等教育、高等教育、社会教育それぞれの専門家に、人口減少社会における地域と学校・大学の現状と課題・展望を論じていただく。丹間康仁氏は、国と地方自治体の学校適正規模・適正配置の政策が、「地方創生」(地方消滅)政策を背景にしつつ、良くも悪くも学校教育中心で進められていることの課題を指摘するとともに、人口減少社会における地域教育環境の維持方策について議論する。草原和博氏は、一見すると、厳しい状況に置かれているかにみえる地方の地域、小さな学校、少ない教室、分断された個が、デジタルを利用して越境的に協働し、新たな共同性と市民性を構築していく姿を描き出す。篠原岳司氏は、過疎地における高校教育の機会保障(高校の存続)が、地域における学習権保障のみならず、自治体の持続可能性や地域振興にも関わっていることを、いくつかの自治体や高校の例を交えて報告する。濱中淳子氏は、近年の審議会における地域と大学の問題に関する議論を整理し、設定されていた視点の限界を浮き彫りにするとともに、別の視点を加えたときにどのような課題やシナリオが提示されるか、その試論を展開する。

それぞれのフィールド・専門分野からの多角的な話題提供をふまえ、フロアのみなさまとともに人口減少社会の現状を把握し、未来を切り拓く議論の場としたい。

登壇者

丹間 康仁(筑波大学)「地域教育体制の持続と学校統廃合—社会教育学の観点から—」

草原 和博(広島大学)「学校の越境とデジタル公共圏の構築—社会科教育の観点から—」

篠原 岳司(北海道大学)「過疎地における高校教育の機会保障—教育行政学の観点から—」

濱中 淳子(早稲田大学)「地域と大学をめぐる政策論議の検証—高等教育研究の観点から—」

司会

松下佳代(京都大学) 亘理 陽一(中京大学)

III プログラム

総会・日本教育学会奨励賞授賞式 8月25日(月) 12:45~14:35

総会

日本教育学会奨励賞授賞式

総会は、上智大学四ツ谷キャンパス6号館101教室およびオンライン会議システムZoomによるハイフレックス形式で開催します。総会の議事次第と資料、Zoom URLは、8月中旬ごろに、会員マイページ (<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/my page/JERA>) でお知らせします。ご確認ください。

なお、すべての審議事項の終了後に、日本教育学会奨励賞 (Young Scholar Award JERA 2025) の授賞式を行います。

日 時 : 2025年8月25日(月) 12:45-14:35

開催方法 : 現地会場(対面)とオンラインZoomのハイブリッド

III プログラム

公開シンポジウム 8月25日(月) 15:00~18:00

公開シンポジウム

学習指導要領改訂と教育学研究

2024年12月25日、文部科学大臣から中央教育審議会に対し「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問がなされ、学習指導要領等の改訂作業が開始されることになった。具体的に審議を求められている事項は多岐にわたるが、たとえば以下の事項などは、教育学の各分野の知見に基づいた議論や提案が可能であり、またしっかりと行われるべきであろう。

- ・各教科等の中核的な概念等を中心とした、目標・内容の一層分かりやすい構造化をどのように考えるか。
- ・デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をよりよく育成するための各教科等の示し方についてどのように考えるか。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるためどのような改善を行うべきか。
- ・各教科等の標準授業時数に係る柔軟性や学習内容の学年区分に係る弾力性を高めることのほか、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方についてどのように考えるか。
- ・各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向け、教育課程上の特例を設けること等についてどのように考えるか。
- ・教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえつつ、国家や社会の形成者として、主体的に社会参画するための教育の改善についてどのように考えるか。
- ・新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書等の在り方をどのように考えるか。

なお、同日には「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について」も諮問がなされており、教育課程と教員養成を同時進行で議論することになった。これらの条件整備も含めた教育課程の基準の見直しである点が、今回の改訂では特に重要である。

本シンポジウムでは、8月の大会開催時点までの中央教育審議会等における検討状況や経緯を振り返り、その意義や課題について教育学の研究成果を踏まえて議論することを通して、今後の学校教育の在り方と、そのための望ましい教育課程の基準とは何かについて深めていきたい。

話題提供

秋田喜代美（学習院大学） 堀田龍也（東京学芸大学） 貞広斎子（千葉大学）

指定討論

広田照幸（日本大学） 佐久間亜紀（慶應義塾大学）

司会

奈須正裕（上智大学）

プログラム 第三日

8月26日（火）

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ

若手交流会

III プログラム

課題研究Ⅱ 8月26日(火) 9:00~12:00

課題研究Ⅱ

教育における社会正義と公正性—包括的教育機会の保障を目指して— (Social Justice and Equity in Education: The Path to the Comprehensive Educational Opportunity)

企画趣旨

課題研究Ⅱでは、昨年度に引き続き、「教育における社会正義と公正性 (Social Justice and Equity in Education)」をテーマとしながら、公教育保障のあるべき姿を検討したい。グローバル化の到来とネオリベリズムの猛威のなかで、経済格差、教育格差の克服が国際的な教育研究の課題となっている。日本においては教育保障をめぐる問題が、子どもの貧困対策等に吸収され、格差を生み出す競争を前提に、その競争のスタート地点に立たせるための施策が「教育と福祉」との連携の名のもとに展開されつつある。学校外での学習支援事業の展開、夜間中学の設置、特別な教育課程にもとづく外国ルーツの子どもへの日本語教育など、メインストリームの「外」での教育機会を拡大する動きが加速している。しかしながら、多様な教育ニーズはメインストリームの「外」で回収されるべきなのか？教育保障とは、競争への参加を保障することなのか？また子どもの教育保障をめぐる課題を「教育と福祉」に分離して考えることは教育の射程をあまりにも狭く解していないだろうか？この問いに「包括的教育機会 (Comprehensive Educational Opportunity)」という観点からアプローチすることが本課題研究の趣旨である。

この企画にあたっては、第一に包括的教育機会概念の提唱者であるコロンビア大学のマイケル・レベル教授 (Michael A. Rebell) より、米国における教育保障論をめぐる最前線の課題について報告をいただく。貧困層の教育保障にあたり必要とされる無償給食や医療提供などは本来的に福祉として実施されるものではなく、それを含め教育への権利なのだとレベル教授は説く。また、自らが訴訟代理人を務めたニューヨーク州の教育財政訴訟において、州最高裁判所が保障されるべき教育を「有能な市民 (productive citizen)」となるにふさわしい教育と定義したことをもとに、これを提供する義務を州政府に問い続けている。レベル教授の提起から、権利として保障されるべき公教育とは何かを検討したい。第二に、包括的な教育保障政策のモデルとして知られる北欧の状況について、イエーブレ大学のタチアーナ・ミハイロヴァ准教授 (Tatiana Mikhaylova) とダニエル・ペッターソン教授 (Daniel Pettersson) からご報告いただく。疑似バウチャー制度の導入以降、スウェーデンでは教育格差が広がり、学力保障が課題とされてきた。一方で、放課後に学校内で提供されている無償の宿題サポートについては、福祉的な政策を装いながら、学校教育のアウトソーシングともとれる現象が生じている。学力を数字 (numbers) でとらえる政策を批判的に論じてきた2人の知見から、学校の社会的機能を改めて考えたい。第三に、上記の米国と北欧からの提起にもとづき、日本の教育保障をめぐる問題について高橋哲会員 (大阪大学) より提起いただく。日本国憲法26条に定められた「教育を受ける権利」の内実を日本の教育学はいかに論じてきたのか？また、子どもの貧困や外国ルーツの子どもの教育保障をめぐる、「人権としての教育」はいかに論じられてきたのかを検証する。日本で議論されている教育保障は「最低限」を前提として狭く解され、なおかつ、本来子どもの教育保障に必要な要素を「福祉」の問題として外在化していないかを問いたいと思う。

これらの報告をもとに、教育の社会正義と公正概念をめぐる日本固有の論点とともに、各国に共通する公教育保障をめぐる課題をフロアとともに検討したい。

登壇者

マイケル・レベル (コロンビア大学)

タチアーナ・ミハイロヴァ (イエーブレ大学)

ダニエル・ペッターソン (イエーブレ大学)

高橋 哲 (大阪大学)

司会

北田 佳子 (埼玉大学) 林 寛平 (信州大学)

III プログラム

課題研究Ⅲ 8月26日(火) 13:00~16:00

課題研究Ⅲ

なぜ、日本の公教育は、不自由で非包摂的なのか？（その2）

—「権利保障」を問う—

企画趣旨

近代教育学は「権利」や「自由」、「平等」といった近代的な政治概念をもとに教育を構想してきた。とりわけ日本の戦後教育学は発達や学習の権利を保障するという枠組みで子どもたちの権利保障を考えてきた。だが、権利保障はつねに包摂的であるわけではない。例えば、自由権の保障が自己決定論等に接続されることで、公教育は不自由で非包摂的な場になりうる。また、発達保障を目指す運動が分離教育を促進してきたという批判は、分離か統合かという二元論の図式を強化してきた。誰がいかなる立場で誰のどのような権利を保障するのか。そもそも権利を保障するという枠組み自体が、保障する者とされる者の権力関係を生み、抑圧的な場を構成しているのではないか。〈差異〉を認め、その〈保障〉を取り決める諸実践が、とりわけ公教育制度と結びつくとき、その場はなぜ不自由で非包摂的になってしまうのか。あるいはそうした諸実践を〈権利の保障〉と捉えることそれ自体に、近代的な政治概念に孕まれた足枷がついてまわっているのではないか。

以上の問題関心を背景に、本研究課題では様々な学問領域から〈権利保障〉を問うてみたい。教育方法学の視点から、川地亜弥子氏には権利保障を様々な仕方で展開してきた教育実践の歴史に基づいて、権利を保障することの背後にある願いや葛藤を掘り起こしてもらおう。教育哲学の視点から、室井麗子氏には自由を保障することが統治に原理となってきた生政治の歴史をふまえつつ、ケア的關係を含み込む教育のあり方を提起してもらおう。教育行政学の視点から、石井拓児氏には福祉国家から新自由主義体制へと移り変わる中で、権利保障と公教育制度が法制的にいかに結びつくのかを論じてもらおう。教育社会学から、清水睦美氏には言語的マイノリティの子どもに対する「学力保障」という名の日本語保障が包摂的排除につながることをふまえて、ともに学び合う場をどのように構想するのかを報告してもらおう。

登壇者

室井 麗子（岩手大学）「教育哲学の観点から」

石井 拓児（名古屋大学）「教育行政・教育法学の観点から」

川地 亜弥子（神戸大学）「教育実践研究の観点から」

清水 睦美（日本女子大学）「マイノリティ研究の観点から」

司会

石井 英真（京都大学）

杉田 浩崇（広島大学）

III プログラム

若手交流会 8月26日(火) 16:15~18:15

若手育成委員会主催 若手交流会

「教育研究者の多様な仕事と醍醐味」

本企画は、教育研究者の仕事や醍醐味の多様性に注目している。教育研究者という言葉を広い意味で捉えることで、そのキャリアの可能性が幅広く認識されるのではないだろうか。このような理解により、アーリーキャリアの研究者が将来のビジョンの視野を広くもつこと、また、教育研究者が互いに学び合い、幅広い連帯が準備されることを期待している。本企画では、多様な仕事に就く教育研究者による話題提供(全体会)と、話題提供者も交えた少人数での議論や交流(グループセッション)の場を設けたい。

■プログラム■

【話題提供】豊田 貴紀(仙台市総務局 人材育成部人事課 主事)
飯島 裕希(お茶の水女子大学 附属高等学校 教諭)
野呂(中島) 朋子(国際機関 教育コンサルタント)

【指定討論】佐久間亜紀(若手育成委員会委員長・慶應義塾大学)

【コーディネーター】鈴木 悠太(若手育成委員会・東京科学大学)
西野 倫世(若手育成委員会・滋賀大学)
影山奈々美(若手育成委員会・東京大学・院生)

【スケジュール】

== (第1部 全体会) ==

16:15-16:25 開会・趣旨説明(10分間)

16:25-17:15 話題提供(50分間)

17:15-17:25 説明・移動(10分間)

== (第2部 グループセッション) ==

17:25-17:45 グループごとに議論・交流1(20分間)

17:45-18:05 グループごとに議論・交流2(20分間)

18:05-18:15 総括・閉会(10分間)

【開催方法】

第1部全体会(17:25)まではハイブリッド(対面&オンライン)で、第2部グループディスカッション以降は対面のみで開催させていただきます。

ご参加予定の方は、右の二次元コードより事前参加登録をお願いいたします(当日参加も歓迎いたします)。



日本教育学会 若手育成委員会 8月ハイブリッド開催
リレー企画「教育研究者の仕事を考える」

2

回

日本教育学会 第84回大会 若手交流会

「教育研究者の多様な仕事と醍醐味」

2025
8.26
火
16:15
18:15

参加費無料

キャリアや年齢にかかわらず、
 どなたでもご参加いただけます。

大会会場 上智大学 四谷キャンパス 6号館201教室

&

全体会は **ハイブリッド開催** / グループセッションは **対面開催**

コーディネーター

東京科学大学 鈴木 悠太氏 滋賀大学 西野 倫世氏
 東京大学・院生 影山 奈々美氏

登壇者

仙台市総務局 人材育成部人事課 主事 **豊田 貴紀氏**
 お茶の水女子大学 附属高等学校 教諭 **飯島 裕希氏**
 国際機関 教育コンサルタント **野呂(中島) 朋子氏**

指定討論
 慶應義塾大学 教職課程センター 教授 **佐久間 亜紀氏**

企画趣旨

本企画は、教育研究者の仕事や醍醐味の多様性に注目しています。教育研究者という言葉を広い意味で捉えることで、そのキャリアの可能性が幅広く認識されるのではないのでしょうか。このような理解により、アーリーキャリアの研究者が将来のビジョンの視野を広くもつこと、また、教育研究者が互いに学び合い、幅広い連帯が準備されることを期待しています。本企画では、多様な仕事に就く教育研究者による話題提供（全体会）と、話題提供者も交えた少人数での議論や交流（グループセッション）の場を設けます。

スケジュール

第1部 全体会	
16:15 ~ 16:25	開会・趣旨説明
16:25 ~ 17:15	話題提供
17:15 ~ 17:25	説明・移動
第2部 グループセッション	
17:25 ~ 17:45	グループごとに議論・交流1
17:45 ~ 18:05	グループごとに議論・交流2
18:05 ~ 18:15	総括・閉会

申し込みおよび質問送付先

URLまたは二次元コードよりお申し込みください。
当日参加も歓迎

問い合わせ先：日本教育学会 若手育成委員会
 wakate@jera.jp

主催：日本教育学会 若手育成委員会

IV 学会事務局からのお知らせ

IV 学会事務局からのお知らせ

日本教育学会 特別課題研究・課題研究委員会・地区研究活動 報告書・資料集頒布のお知らせ

○特別課題研究

101	教育改革の総合的研究 第1集	[2001年8月]	500円
102	教育改革の総合的研究 第2集	[2002年8月]	500円
104	教育改革の総合的研究 第4集	[2004年8月]	800円
203	教師教育の再編動向と教育学の課題 研究集録〈2〉	[2006年8月]	500円
301	教育改革の国際比較	[2007年9月]	3,400円
302	教育研究における東アジアの歴史認識	[2009年8月]	500円
303	東アジアの教育－その歴史と現在－（資料集）	[2011年8月]	500円
304	東アジアの教育－その歴史と現在－（最終報告書）	[2012年8月]	500円
305	現職教師教育カリキュラムの教育学検討	[2012年9月]	500円
309	東日本大震災と教育－原発・エネルギー問題の教育実践課題を中心として－	[2013年2月]	無料
401	スクール・セクハラ問題の総合的研究	[2017年5月]	500円

○課題研究委員会

D-2	「人間の尊厳と共生」の教育研究（平和教育・環境教育資料付）	[2002年8月]	500円
-----	-------------------------------	-----------	------

○地区研究活動

東北-11	新しい時代の学校システムを考える －教育のグローバル化への国際バカロレア(IB)の可能性－	[2017年3月]	300円
東北-12	新しい時代の学校システムを考える－大学と地域連携の新たな課題－	[2018年3月]	300円
東北-13	新しい時代の学校システムを考える－大学入試改革の理念と実態－	[2019年3月]	300円
東北-14	新しい時代の学校システムを考える－戦間期の教育政策変容から現代を問う－	[2020年3月]	300円
東北-15	新しい時代の学校システムを考える－教育と福祉の連携を問い直す－	[2022年3月]	300円
東北-16	新しい時代の学校システムを考える－『令和の日本型学校教育』における教員研修の再検討－	[2023年3月]	300円

IV 学会事務局からのお知らせ

東北-17	新しい時代の学校システムを考えるー小規模特認校制度の可能性と課題を問うー	[2024年3月]	300円
関東-1	学校での人権侵害としてのセクシャル・ハラスメントをどう防ぐか	[2006年8月]	300円
関東-3	中学生・高校生のセクシュアル・マイノリティの子どもたちと教育に関する研究・実践動向／ 男女共学制下のジェンダー平等教育ー北関東諸県を中心にー	[2009年8月]	300円
関東-4	シンポジウム「環境教育の新たな展開と課題」	[2011年6月]	300円
関東-5	教員養成において教育学教育の果たす役割	[2012年8月]	300円
関東-6	スクール・セクハラ問題と教育学の課題	[2013年3月]	300円
関東-7	見えない学力格差の是正ー子どもの放課後の学びの支援ー	[2014年5月]	300円
関東-8	学校教育とセクシュアリティ問題ー多様な性と教育にどう向き合うかー	[2017年7月]	300円
*関東-2, 9は複写で頒布。次ページ参照。			
東京-4	シンポジウム「教師教育改革を問い直す」	[2019年8月]	300円
中部-1	教養と学力	[2011年6月]	350円
近畿-8	災害の記憶と教育ー阪神・淡路大震災の想起と追想をめぐる討議ー	[2013年7月]	300円
近畿-9	私の教師生活4ー戦後教育実践に学ぶー	[2017年8月]	300円
近畿-10	私の教師生活5ー戦後教育実践に学ぶー	[2018年6月]	300円
近畿-11	特別支援教育の現場における保護者と学校のズレはどこから生まれるのか？	[2019年4月]	300円
近畿-12	私の教師生活6ー戦後教育実践に学ぶー	[2019年8月]	300円
中国-9	全国学力調査を教育の改善にどう生かすか／教育研究の細分化は何をもたらしたか (公開シンポジウム・研究会 成果報告書)	[2008年4月]	300円
中国-11	リスク社会の捉え直しと教育の課題	[2013年7月]	300円
中国-12	次世代の教師を育てる教員養成関連授業の可能性ー教育学と教科教育学の対話と協働ー	[2015年8月]	300円
中国-13	社会保障と教育の接続をめぐる	[2018年3月]	300円
四国-11	「日常」と教育理論ー教育学的「実験」国家としての旧東ドイツ	[2017年6月]	300円
四国-12	シンポジウム報告書「教員養成改革の方向性」	[2017年6月]	300円
中国・四国-1	教育格差と教員養成の課題	[2020年4月]	300円
中国・四国-2	学校の日常が突然に引きはがされたとき ー戦争、自然災害、パンデミック下の学校教育ー	[2021年3月]	300円
中国・四国-3	ポストコロナの教育を展望する	[2021年11月]	300円

IV 学会事務局からのお知らせ

中国・四国－4 SDGs 時代の教育

－教育・学習における変革・変容 (transformation)にどう向き合うか－

[2021 年 3 月] 300 円

中国・四国－5 子どもの多様性を包摂する保育・教育をめざして

[2023 年 11 月] 300 円

○そのほか資料コピー

以下の資料は冊子が在庫切れのため、1 枚 10 円で資料コピーを頒布いたします。

複写-1 「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.1） [2013 年 8 月] 610 円

(61 枚)

複写-2 <日本教育学会・公開シンポジウム> 原発事故・放射能被災を学校教育はどう受け止めるか

[2014 年 3 月] 690 円 (69 枚)

複写-3 東日本大震災と教育に関する研究（全体編その 1）

－子ども、園・学校は津波被災と原発災害にどう向きあったか、向きあっているか－

[2014 年 3 月] 1,730 円 (173 枚)

複写-4 「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.2） [2014 年 8 月] 570 円 (57 枚)

複写-5 東日本大震災の大津波被災とその後を子ども・教師・学校はどう生きているか

[2015 年 1 月] 420 円 (42 枚)

複写-6 養護教諭が体験した東日本大震災

－地震と津波発生時、避難所運営と避難者ケア、学校再開後の子どもたちのケアと教育－

[2015 年 2 月] 440 円 (44 枚)

複写-7 東日本大震災とそれ以降における教育委員会や学校の状況に関する調査報告書

[2015 年 3 月] 870 円 (87 枚)

複写-8 東日本大震災と教育に関する研究（全体編その 2）

－「3.11」以降の子ども・教師・学校の経験と実践・支援・政策・研究の課題－

[2015 年 3 月] 2,510 円 (251 枚)

複写-9 「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.3） [2015 年 8 月] 480 円 (48 枚)

複写-10（関東-2） 教育学 meets クィア・スタディーズ<大学教育とクィア>に関する諸課題を考える－

[2008 年 3 月] 290 円 (29 枚)

複写-11（関東-9） 平和教育研究のこれまでとこれから－日本教育学会の役割を考える－

* SOLT I の会員マイページで無料公開中 [2023 年 5 月] 220 円 (22 枚)

IV 学会事務局からのお知らせ

【申し込み方法】

- ・下記申込先まで、E-mail または Fax にて希望する冊子の番号・記号と送付先住所をお知らせください。報告書送付時に、代金と送料実費をご請求しますので、郵便振替にてご送金ください。なお、請求書類が必要な場合は、申し込み時に種類と書式等をお知らせください。
- ・このリストは 2025 年 6 月現在のものです。

申込先： 日本教育学会事務局

電 話：03 -3253-6630 Fax：03 -3254-0477 E-mail：jimu@jera.jp

住 所 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-15-2 クレアール神田 102

日本教育学会第 84 回大会プログラム

2025 年 8 月 23 日、25 日、26 日

大会校 上智大学

祝 日本教育学会第84回大会

- 小学校・中学校・高等学校教科書
- 副読本・教育用図書・参考書
- デジタル教科書・教材

日本文教出版の志—Purpose

心が動く、その先へ。

これが好き。なんでだろう？もっと、知りたい。
心が動く、瞬間。それは、「学び」のはじまり。

感じ、考え、想像し、表してみる。
そこから生まれる、一つひとつが、あなただけのもの。

それを贈り合ったら、うれしくなる。
心が満ちて、次の「やってみたい」が湧いてくる。
ほかの誰かと混ざり合ったら、ちがう景色が見えてくる。

そんな学びが、あなたの、みんなの世界を耕していく。

私たちは、学びのはじまりを大切にし、
その先に広がる一人ひとりの未来をともに育みたい。

心が動く、そのそばで。

どんなに時代や社会が変わっても、大切にしたいこと。
その想いを、志（Purpose）に込めています。

私たちはこれからも、一人ひとりの心が動く瞬間に寄り添いながら、
その先に広がる未来をともに育んでいきます。

お問い合わせは、小社ホームページ「お問い合わせフォーム」よりお願いいたします。



心が動く、その先へ。

日本文教出版

日本文教出版株式会社 <https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社	〒558-0041	大阪市住吉区南住吉 4-7-5	TEL: 06-6692-1261
東京本社	〒165-0026	東京都中野区新井 1-2-16	TEL: 03-3389-4611
九州支社	〒810-0022	福岡市中央区薬院 3-11-14	TEL: 092-531-7696
東海支社	〒461-0004	名古屋市東区葵 1-13-18-7F・B	TEL: 052-979-7260
北海道出張所	〒001-0909	札幌市北区新琴似 9-12-1-1	TEL: 011-764-1201

最新刊
学校で教師ができるアセスメント 高橋あつ子 著
 2200円
教育相談の理論と方法 (改訂版) 会沢信彦 編著
 予2300円
心とふれあう教育相談 (改訂版) 卯月研次・後藤智子 編著
 予2500円

地域共創のすすめ

大好評！
 最新刊！

人がまなぶ、人がつながる、地域がつながる
 武田真理子・伊藤真知子・加留部貴行 編著
 山形県庄内地域、8年間で20代から70代の188名が修了！数々の対話と協働を生み出した「大人の学び合いの場」、「地域共創・コディネーター養成プログラム」の実践記録。
 2200円



新刊
パフォーマンス教職入門…みんなで一緒に育つために 郡司 菜津美 著
 2300円

新刊
知って広がる教師の世界 鹿嶋真弓・所澤潤 編著
 2200円

新刊
令和版 生徒指導・キャリア教育の理論と実践 吉田浩之 著
 2600円

新刊
教師と学生が知っておくべき 特別支援教育 (改訂版) 北島善夫・武田明典 編著
 112頁 1800円

新刊
教師と学生が知っておくべき 教育心理学 武田明典 編著
 176頁 2300円

新刊
教師と学生が知っておくべき 教育原理 村瀬公胤・武田明典 編著
 144頁 2300円

新刊
教師と学生が知っておくべき 教育方法論・ICT活用 武田明典・村瀬公胤 編著
 148頁 2200円

新刊
実践につながる教育心理学 (改訂版) 櫻井茂男 監修、黒田祐二 編著
 226頁 2200円

新刊
実践につながる教育相談 (改訂版) 黒田祐二・清水貴裕・飯田順子 編著
 192頁 2400円

新刊
実践につながる生徒指導・キャリア教育 黒田祐二・清水貴裕・永作稔 編著
 186頁 2200円

新刊
実践につながる道徳教育論 藤川信夫 監修、國崎大恩・Kiri Mawar 編著
 228頁 2400円

新刊
実践につながる教育原理 國崎大恩・藤川信夫 編著
 210頁 2200円

新刊
子どもを応援するための特別支援教育 曾山和彦 編著
 2400円

新刊
発達と教育 文教大学教育学部発達教育課程 編著
 2500円



北樹出版

153-0061 東京都目黒区中目黒1-2-6

TEL:03-3715-1525 FAX:03-5720-1488

URL:http://www.hokuju.jp E-mail:eigyot1@hokuju.jp (価格は税別)

■石岡 学 A5判上製288頁 税込4400円 ISBN978-4-326-25188-9

最新刊
「100年前の「入試改革」 一九二〇年代中等学校入学難問題にみる教育と選抜
 史料を繙き歴史的背景を究明し、現代に続く教育と選抜の問題の本質に迫る。

■松下佳代・川地亜弥子・森本和寿・石田智敬 編著
 A5判並製324頁 税込3300円 ISBN978-4-326-25183-4

ライティング教育の可能性
 アカデミックとパーソナルを架橋する
 〈書くこと〉を教え、学ぶことについて人間にとっての意味から考える。

■松下佳代 A5判上製276頁 税込3850円 ISBN978-4-326-25180-3

測りすぎの時代の学習評価論
 教える側、学ぶ側の双方にとって学習評価の意味あるものにするために。

■酒井朗 編著 A5判上製248頁 税込2970円 ISBN978-4-326-25182-7

「小一の壁」を検証する——就学の社会学
 社会問題化の背景を明らかにし、家庭と学校・国・社会との関係を検討する。

■園山大祐 編著・監訳／ソッティイレ・マルコ 監訳
 A5判上製420頁 税込6380円 ISBN978-4-326-60378-7

移民の教育政策を制度から問いなおす
 フランスにみる新規移民からその子孫まで
 半世紀を経たフランスの移民政策から、私たちは何を学ぶことができるのか。

■今井 聖 A5判上製256頁 税込4400円 ISBN978-4-326-25184-1

子どもの自殺問題の社会学
 学校の「責任」はいかに問われてきたのか
 子どもの自殺はどのように学校と関係づけられ、理解されているのか。

■マキシング・クリーン／上野正道 監訳／桐田敬介・近藤真子・園部友里恵 監訳
 四六判上製480頁 税込4950円 ISBN978-4-326-29393-3

教想像力をときはなつ——アートと教育が社会を変える
 アメリカ教育哲学界のレジエント、グリーン晩年の主著の一つを本邦初翻訳。

■河野哲也 四六判並製280頁 税込2750円 ISBN978-4-326-29940-9

教育哲学講義——子ども性への回帰と対話的教育
 長年「子どもの哲学」にかかわってきた著者による、教育哲学講義ノート。

■濱中淳子・葛城浩一 編著 四六判上製260頁 税込3300円 ISBN978-4-326-65446-8

〈学ぶ学生〉の実像——大学教育の条件は何か
 〈大学固有の学び〉を支えるために必要な条件をあぶり出す。



勁草書房

https://www.keisoshobo.co.jp

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

*表示価格は10%税込

国語教育における子どもの表現力の探求と指導

有働玲子編著

6600円

小学校国語科における討論指導に関する研究

北川雅浩著

4950円

国際学力調査に基づく読書指導法の開発研究

足立幸子著

10450円

砂場における幼児同士の遊びの特徴と過程の検討

箕輪潤子著

6600円

関係性に基づく幼児の情動調整

勝野愛子著

6050円

子ども観と評価でみる学校教育史

松本和寿著

8250円

レリバンスの構築を目指す令和型学校教育

關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著

4180円

質の認識としての音楽科カリキュラム

西園芳信著

5500円

教育における女性リーダーシップ

J・ワイナー M・C・ヒギンズ著 八尾坂修他訳

2970円

学力テストのイノベーションとダイバーシティ

北野秋男著

5830円

教員養成学を考える

上越教育大学「教員養成学」書籍編集委員会編

4180円

社会科教育からのケイパビリティ・アプローチ

志村喬編著

3300円

地方小規模私立大学の挑戦

林勇人編著

1650円

戦前期女子高等教育の「社会創出機能」

藤村朝子著

6050円

大正新教育の実際家

橋本美保編著

4070円

「共生」の教育創造(関係形成)〈理解・認識〉の内容と連関

金丸彰寿著

8800円

授業リフレクション研究による学びの考究

澤本和子著

7700円

続 奇跡の学校

小西哲也・中村正則編著

1980円

—不可能を可能にした
コミュニティ・スクール—

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

教育学年報

知的で自由な対話を活性化し
教育研究を切り拓く

【第4期・2025年8月刊行】

16号

教育の自由/不自由

浅井幸子 隠岐さや香 石井英真
仁平典宏 丸山英樹 編

【第3期・既刊好評】

12 国 家

青木栄一 丸山英樹 下司 晶 濱中淳子
仁平典宏 石井英真 編
3400円(328頁、2021年刊)

13 情報技術・AIと教育

石井英真 仁平典宏 濱中淳子 青木栄一
丸山英樹 下司 晶 編
3600円(344頁、2022年刊)

14 公教育を問い直す

佐久間亜紀 石井英真 丸山英樹 青木栄一
仁平典宏 濱中淳子 下司 晶 編
4600円(456頁、2023年刊)

15 生涯学習

丸山英樹 濱中淳子 青木栄一
石井英真 下司 晶 仁平典宏 編
4200円(400頁、2024年刊)

◎ 広瀬裕子Ⅱ編
カリキュラム・学校・統治の理論
◎ ポストグローバル化時代の教育の枠組み 2200円

◎ 赤本(一九三八〜一九四二)
◎ 内務省児童読物統制・佐伯郁郎とその朋友
38000円

◎ 矢野智司・井合信彦Ⅱ編
教育の世界が開かれるとき
◎ 何が教育学の思考を奨励させるのか 4400円

◎ 現代ドイツの教育改革
◎ 学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性 3600円

◎ 中嶋哲彦・広田照幸Ⅱ編
教員の長時間勤務問題をどうする？
◎ 研究者からの提案 16000円

◎ 前原健二
現代ドイツの教育改革
◎ 学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性 3600円

◎ 矢野智司・井合信彦Ⅱ編
教育の世界が開かれるとき
◎ 何が教育学の思考を奨励させるのか 4400円

◎ 赤本(一九三八〜一九四二)
◎ 内務省児童読物統制・佐伯郁郎とその朋友
38000円

◎ 矢野智司・井合信彦Ⅱ編
教育の世界が開かれるとき
◎ 何が教育学の思考を奨励させるのか 4400円

◎ 現代ドイツの教育改革
◎ 学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性 3600円

◎ 中嶋哲彦・広田照幸Ⅱ編
教員の長時間勤務問題をどうする？
◎ 研究者からの提案 16000円

教育史像の脱構築

◎ 近代化言説の系譜学 3400円

愛と創造の教育学

◎ 境界を開くためのレッスン 3400円

生きているものどうしの想像力

3000円

◎ アニミズムがひらく生命の保育・教育
◎ 「根源的な生態想像」とは「虫や草、石や風と対話する子どもたちの世界を共にすること」に、持続可能な未来へ向けた保育・教育の可能性を發見する

教育分野における地方自治体の財政行動

◎ 地方分権改革以降の学校統廃合の分析
◎ 「学校統廃合」地方財政効率化
◎ 運営が非効率になる自治体も、人口減少社会における教育財政の在り方を考える

劉麗鳳

◎ 中学中退
◎ 教師のエンゲージメント 3800円

高宮正貴

◎ J・S・ミルの教育思想
◎ 自由と平等はいかに両立するのか 3000円

林潤平

◎ 自然愛をめぐる教育の近代日本
◎ 自然観の創出と変容の一系譜 3500円

福元真由美

◎ 都市に誕生した保育の系譜
◎ アンジェイニズムと郊外のユートピア 3500円

日本教育学会教育動向ワーキンググループ

◎ 教育動向の教材使用問題どう考えるか 2400円

教育動向と学校教育

◎ 教育動向の教材使用問題どう考えるか 2400円



世織書房

〒220-0042 横浜市区戸部町7-240 文教堂ビル3階 TEL045-317-3176 / FAX045-319-0644
seori@nifty.com <https://seorishobo.com> (税抜)



実存と理性と自由 —ヤスバース教育哲学研究

●豊泉清浩 著 定価5,500円
独自の実存哲学を樹立したヤスバースにおける教育哲学の可能性を探る。



就「社」社会で就「職」する若者たち

—専門学校の初期キャリア
●片山悠樹 編著 定価3,080円
「会社員」「職業」中心のキャリアの違いを意識し、若者のキャリア形成を検討。



「だれが教師をめざすのか」の教育社会学

—「観察による徒弟制」と教員養成
●太田拓紀 著 定価2,640円
現代の若者が教職を選択し、養成段階に到る過程とそこに潜む課題を検証。



教員志望学生の不安や悩みをどう理解するか

—現代アメリカにおける支援実践から
●太田知実 著 定価3,740円
多文化教育を基盤とする、現代アメリカの動向を手がかりに問いに向き合う。



高校と地域のパートナーシップ

—協働が未来を拓く
●荻原彰・小玉敏也 編著 定価2,640円
多様化する学校の地域協働を5つのカテゴリに整理し、事例や課題を提示。

早稲田教育ブックレット

●早稲田大学教育総合研究所 監修
各巻：定価1,100円

32 「先生は忙しい」というけれど…それって先生の仕事？
—フランスの教員の働き方を参考に考える

33 AIは教育をどう変える？—可能性と課題を学際的に追究する

34 不登校問題と子ども・若者の「居場所」の現在
—不登校の子どもが生きる「社会」を拓く

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.co.jp>

学文社



教育方法学辞典

●日本教育方法学会 編 定価6,380円
学会60年の研究蓄積を集約。教育方法学の基本概念も各分野で掲載。



貧困化する授業からの反転

—デジタル化と「子ども主体」の偽装を真正の教育へ
●子安潤 著 定価2,640円

教師の教育活動から思考が奪われ、画一化が図られる世界に警鐘を鳴らす。



近代日本小学校教員検定制度史研究

—地方における試験検定・無試験検定制度運用と受験の実態
●丸山剛史・井上恵美子・釜田史・白石崇人・大谷奨・亀澤朋恵・内田徹 著
定価4,730円
小学校の教員資格を認定する小学校教員検定制度に関する歴史的研究。



障害のある人びとの学びをどのようにデザインするか

●海老田大五郎 編著 定価2,750円
特別支援教育の学びに必要な「学びのデザイン」の提示と方法論を精緻化。



一人一台で授業をパワーアップ!

—教育の質を飛躍的に向上させるICT活用実践ガイド
●ダイアナ・ニービー、ジェン・ロバーツ 著/
齊藤勝・白鳥信義・吉田新一郎 訳 定価2,750円
アメリカの教師らが日々試行錯誤しながら生じた優れた授業実践を多数紹介。

早稲田教育叢書

2時間単元で構成する道徳科授業の理論と実践

●田中博之 著 定価3,520円

「古典探究」の漢文関連教材をめぐる実践と研究

●堀誠 編著 定価3,080円

社会関係資本を活かした学校づくり

事例とデータでみる
子どもたちの「つながり」

志水宏吉／中村瑛仁／若槻健編著 2,970円

プラットフォームとしての「学校」の実践

多職種・多機関連携の
マネジメントと教員の役割

柏木智子／後藤武俊／片山紀子／百合田真樹人編著 2,970円

学力と評価の戦後史

古川治著●学力論争・評価論争は教育の何を変えたのか 3,300円

現代の学力観と評価

MINERVAはじめて学ぶ教科教育別巻
吉田武男監修 樋口直宏／根津朋実／吉田武男編著 3,080円

平成時代における高校生の進路選択

中西啓著●トラッキングの弛緩に関する実証的研究 4,950円

リテラシー教育はどうあるべきか

樋口とみ子著●現代アメリカにおける概念の相克から読み解く 6,600円

専門書を読む

吉田文／濱中淳子／渡邊浩一編著●教員と学生でつくる10講座 3,300円

江戸教育思想史

山本正身著 9,900円

山下徳治と日本の民間教育運動

前田昌子著●人間発達論の発生論からセルフデザイン論へ 7,150円

新・道徳教育はいかにあるべきか

道徳教育学会編 6,050円
道徳教育学会の構築／次期学習指導要領への提言

新たなワークキャンプ実践の可能性

堤拓也著 7,920円

インクルージョンを展望するカリキュラムづくり

インクルージョン授業研究会編 2,860円

シユタイナー学校の造形教育

吉田泰穂子著●芸術によるWell-beingの実現の方法論 11,000円

「教育の政治的中立」の政治過程

藤田祐介著●教育二法成立史を再考する 8,250円

統治機構改革は教育をどう変えたか

徳久義子／砂原廣介／本多正人編著●現代日本のリスケーリングと教育政策 4,180円

ネットいじめとスクールカースト

原清治／鈴木翔／山内乾史編著●ポストコロナの新たな展開

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1* 表示価格税込 目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

教育の「いま」をつかむために。時事通信出版局の本

教員をめざす人、学校管理職、 教職員、教育行政職員の必携書

現行学習指導要領が告示されて8年が経ち、あと数年のうちに次期学習指導要領の改訂が行われる。

この間、コロナ禍を経てGIGAスクール構想が加速度的に実現し、学校のあり方は大きく変わった。これまでの教育の制度やマネジメントの仕組みは何かどう変わったのか、あるいは変わらない部分は何か。

「学校のカリキュラム・マネジメント」「GIGAスクール構想の実現と教育DXの推進」など、時代の変化に合わせた新章を加え、詳しく解説する。

改訂新版

教育の制度と学校のマネジメント

編：加藤崇英 臼井智美

著：高野貴大 吉田武大 福島正行 照屋翔大

田中真秀 張 信愛 石崎ちひろ 川口有美子 吉田尚史

●A5版・212頁 定価：本体2,000円＋税 ISBN:978-4-7887-2016-9



時事通信出版局

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル8F
tel.03-5565-2155 fax.03-5565-2168 <https://bookpub.jiji.com>



有斐閣

出版案内

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

<https://www.yuhikaku.co.jp/>

表示価格は税込

成人式を社会学する

元森絵里子・ハントンヒョン編

四六判 定価2640円

内申書を問う

田中耕治・西岡加名恵編

教育評価研究からみた
内申書問題

四六判 定価2970円

ワイノット
y-knot シリーズ (各四六判)

これからの教育学

神代健彦・後藤篤・横井夏子著 定価2090円

*ウェブサポートも充実(学生用/先生用)..
Q&A、導入動画、文献、コラム等補助教材を提供



詳細は
こちら

教育政策・行政の考え方

村上祐介・橋野晶寛著

定価2310円

問いからはじめる教育史

岩下誠・三時真貴子・倉石一郎・姉川雄大著 定価2420円

問いからはじめる教育学

勝野正章・庄井良信著

定価2090円

はじめての子ども教育原理

福元真由美編

定価1980円

はじめての子ども論

子ども観の歴史社会学

元森絵里子著 2025年新刊

定価2420円

